

平成 26 (2014) 年度 「吹田市幼小中一貫教育」 推進事業

古江台中学校区幼小中一貫教育研究報告集



平成 27 (2015) 年 3 月

古 江 台 幼 稚 園

古 江 台 小 学 校

津 雲 台 小 学 校

古 江 台 中 学 校

目 次

■ 古中ブロック校園長挨拶	1
■ 年間の活動内容	3
■ 幼小中連携通信「JOINT」N0.26、27、28	4
■ 古中ブロック推進委員会報告「ジョイント+++プラス」	10
■ 連携部会(7/29夏季合同研修分科会)報告	19
■ 古中ブロック公開授業指導案	24
■ 事務連携部会	38
■ 「言語力育成」モデル	39
■ 国語力向上「古中ブロック」スタンダード、「議論のルール」	42
■ 生徒指導連携部会、ABC運動、授業規律の教師心構え9ヶ条	43
■ 古中ブロック 100 冊の本①②	44

懐かしい出会いのプレゼント

古江台幼稚園 園長 前田 栄子

ずいぶん昔に担任として6年間、少し昔に主任として4年間勤めていた古江台幼稚園に、4月から戻ってきました。初めに勤めていた頃の子ども達は大学生や社会人になり、北千里界限で出会う保護者の方から、就活に頑張っている様子や、子どもが生まれて親として奮闘している様子を聞くことができます。次に勤めていた頃の子ども達は小学校の高学年と中学生になり、運動会で宣誓をしたり下級生をリードしている様子を頼もしく感じたり、研究授業を見せていただいた時に、グループの話し合いでしっかり意見を言っている姿に感動したり、制服姿で「こんにちは！」と元気に挨拶してくれる様子やブラスバンドで頑張っている様子をまぶしく感じます。幼稚園時代の幼い顔や出来事を思い出しながら、こんなに近くで成長を目の当たりにできる神様からのプレゼントに感謝しています。

古中ブロックでは「幼小中11年間を通しての一貫教育」が普通に語られ、小中の先生方や保護者の方が幼稚園にも目を向けてくださっているのはとても嬉しいことです。また、古中ブロックのホームページができ、リンクし合えるようになったことも画期的で、互いをより身近に感じられる気がします。

幼稚園は11年間の土台作り、飛び立つ力をしっかりつけて送り出します。巣立っていく子ども達はまだまだ遠くまで飛べませんが、小学校に行っても中学校に行ってもたくさんの人に見守ってもらえる止まり木があると思うと、安心して飛び立たせることができます。そしてまた何年か後に、今の子ども達が成長して、いろいろな場面で輝いている姿を見られることを楽しみにしています。

幼・小・中の連携を軸に

津雲台小学校 校長 有岡 雅裕

古江台中学校ブロックでは、「言語力育成」をテーマに取り組みを進めています。子どもたちの発達段階に応じた「言葉の増やし方」や「言葉の使い方」、「言葉での思考の深め方」を視点にした古江台中学校独自のカリキュラムを作成し、加筆修正を加えて、より具体的に、より精選したものへと改訂してきました。

津雲台小学校では、このカリキュラムをベースに、国語科を中心にした言語力育成を、他教科・領域へも広げ、しっかりと身につくような取り組みを進めています。「話すこと」「聞くこと」を中心に据え、自分の思いを伝えることや友だちの考えを理解することで、好ましい人間関係を構築できるようになってほしいと願いながら、日々の授業や活動の中で実践しています。少しずつではありますが、自分の言葉で話せるようになってきたと感じています。

また、子どもたちに読んでほしい「古中ブロック100冊の本」を選定し、読書にも取り組んでいます。今年度の追加予算で、本校では2000冊あまりの図書を購入して閲覧・貸し出しを行っています。読書の好きの児童が多い本校では、図書の時間には静まりかえった環境で、読書を楽しむ子どもたちの姿が見受けられます。

今後も、古江台中学校ブロックの特色ある幼・小・中連携を発展させ、子どもたちのさらなる成長につながるように取り組みを進めていきたいと思っております。

幼・小・中 11 年間を見通した特色ある取り組み「言語力の育成」

古江台小学校 校長 益原 八寿夫

古江台中学校ブロックでは、今日的な教育課題である「言語力の育成」に取り組んでいます。言葉の力はすべての学力の基礎となります。保育園・幼稚園から小学校へ、また、小学校から中学校へと、11年間で子どもたちをどう育てていくのかを意識して取り組んでいます。

「言葉の増やし方」「言葉の使い方」「言葉での思考の深め方」を視点に、幼稚園・小学校は発達段階に応じた取り組み、中学校では各教科での取り組みを一覧にまとめ、「言語力育成」のカリキュラム作成を進めて3年目になります。

また、古江台中学校ブロックの研究授業では、11月5日に津雲台小学校で5年国語、11月18日に古江台中学校で2年道徳、1年国語を行い、言語力育成を見据えながら授業の在り方について、熱心な研究討議を重ねました。

さらに、生徒指導交流会、夏季研修会、冬季研修会の年3回の合同研修会を行っています。

このように、古中ブロックでは、「言語力育成」をテーマに、授業の在り方に視点を置いた研究授業や全体研修会を通して小中一貫教育に熱心に取り組んでいます。

今年度は、古江台幼稚園でも研究授業・研究会を行い、保育指導案を報告集に掲載いたしました。

さらに古江台中学校ブロックとしてのホームページも立ち上げ、取り組みを広く情報発信が出来るようにしました。

古中ブロックの特色ある幼・小・中一貫教育は、11年間を見据えながらも、目の前の子どもたちを大切にしながら、日々地道に積み重ねていくことが大切だと考えています。今後も子どもたちの成長を願いながら、幼稚園・小学校・中学校と協働して取り組んでいきたいと思えます。

幼小中一貫教育で、統一した指導を！

古江台中学校 校長 射場 宣廣

本中学校ブロックは、「幼小中11年間で育む言語力の育成」をテーマに取組をすすめています。推進委員のメンバーが毎月集まり協議し、研究授業や夏季・冬季研修、そして生徒指導交流などブロックの先生方の熱意と創意工夫により、1年間取組を進めることができました。また、中学校クラブ活動体験において、児童・生徒交流も深めることができました。

特に、幼小中の教職員が一緒になって、講師を招いての研修や研究授業・研究協議を計画的に取り組んでいます。そこでは、言語活動の充実がさらに各教科等の目標を達成させ、確かな学力の育成につながるものであるという共通理解のもと、取組をすすめています。

そこで、今年度も、昨年作成した「言葉の増やし方」「言葉の使い方」「言葉での思考の深め方」の改訂を行いました。また、昨年度末には、子どもたちに読んでほしい「古中ブロック100冊の本」の改訂も行いました。

また、ブロックとして「ABC運動」を指導し、「授業規律の教師心構え9ヶ条」を教師が大切にしなければならぬもの・大切にしていきたいこととして、推進しています。この取組が、子どもたちの人間的な成長につながることを願い、今までの取組をさらに発展させ、ブロックの子どもたちがますます成長するように、ブロックとしてがんばりたいと思えます。

古江台中学校ブロック 年間の活動内容

推進委員会

- 第 1 回 4月21日 (月)
- 第 2 回 5月23日 (金)
- 第 3 回 6月19日 (木)
- 第 4 回 7月11日 (金)
- 第 5 回 9月18日 (木)
- 第 6 回 10月24日 (金)
- 第 7 回 11月14日 (金)
- 第 8 回 1月16日 (金)
- 第 9 回 2月24日 (火)

事務連携部会

推進委員会前に開催

児童・生徒指導交流会

5月15日 (木) 古江台中学校

小学校の昨年度の6年生担任と生活指導担当、中学校の現1年生担任と生徒指導担当が集まり、現在の中学1年生の子どもたちの様子について情報交換をしました。

夏季合同研修会

7月29日 (火) 吹田市立教育センター

全体会 講演「幼小中一貫教育における言語力の育成」

大阪聖母学院小学校 教諭 奥 清二郎 様

分科会 「各教科・事務」連携部会

テーマ・討議内容

- ・各教科、領域で授業で工夫しているところや課題となるところ
- ・子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状
- ・各教科、領域ごとの情報交換

(児童生徒の現状と課題、授業、テスト、評価・通知票など)

- ① 国語、②算数・数学、③社会、④理科、⑤英語、⑥体育、
- ⑦図工美術・音楽・技術、⑧事務、⑨養護教諭・栄養教諭、⑩支援

冬季合同研修会

1月30日 (金) 古江台中学校

講演 「小中一貫教育の実践」

箕面市立とどろみの森学園 教頭 陸奥田 維彦 様

公開授業

【津雲台小】 11月5日 (水) 5時限目 13時40分～14時25分

国語「注文の多い料理店」5年1組 井上 良太 教諭

指導助言 大阪教育大学 講師 長谷川 秀子 様

【古江台中】 11月18日 (火) 6時限目 14時25分～15時15分

国語 「国語で生きる ～数学編～」1年2組 梅阪 祐司 教諭

道徳 「マララ・ユスフザイさんの体験を通して」

2年4組 藤田 亜矢 教諭

指導助言 鳴門教育大学 大学院講師 泰山 裕 様

吹田市教育委員会 指導課 指導主事 江下 毅 様

授業見学・小中交流会

10月23日 (木) 古江台中学校

13時25分～14時15分 小学6年生 中学校授業見学

14時30分～15時30分 小学6年生 中学校クラブ見学・体験

古江台中学校ブロック 夏季合同研修会

7月29日(火) 13:00～17:00 吹田市立教育センターにて、古江台中学校ブロック夏季合同研修会を開催しました。3校1園の教職員67名が参加し、講演会・分科会を通してともに学び合いました。

【講演会】「幼小中一貫教育における言語力の育成」

大阪聖母学院小学校 奥 清二郎 様

今回は、大阪聖母学院小学校の奥 清二郎先生を講師にお迎えし、「幼小中一貫教育における言語力の育成」について、90分間のご講演をしていただきました。

朝の会では、フラッシュカードや音読、カルタなどを使って、また授業では、実践のビデオや授業教材を紹介していただき、言語力を育てるためのさまざまな方法を学ぶことができました。



【言語力の育成を重視した指導】

1 毎日の生活に位置づける。

- ① 時間を守って席に着く。
 - 朝の読書、ベル着など
- ② 日課活動
 - 毎日決まった形で朝の活動をこなす。
 - ・あいさつ
(名前をリズムよく呼ぶ、明るくする)
 - ・△月△日(△曜日)
 - ・フラッシュカード、かぞえ歌
 - ・音読(詩文暗唱)
 - ・朝の1分間清掃
 - ・ソーシャルスキルカルタ
- ③ ありがとう！から始まる1日

○国語より

- 文章を読むものさしを決めてやる。
 - ・登場人物とは
 - ・対役は
 - ・話者は
 - ・対比
 - ・クライマックス
 - ・主役、主人公とは
 - ・脇役は
 - ・視点は
 - ・イメージ
 - ・主題

3 保護者と協力して育てる。

- 家庭訪問や個人懇談で
- 教師は子どもや保護者に勇気や希望を与える仕事
- 子どもを認め、励ましてやるのが大切



2 授業の中で育てる。

- フラッシュカード、詩文の暗唱
- ノート指導
 - 間違いは消さずに残しておく。
- 漢字指導
 - テストは同じところを4回する。
- 話し合い・討論の授業
- 道徳より
 - ・「いのちをいただく」
 - ・タイのCM

【分科会】

教科・領域別および事務連携、養護・栄養教諭の全10分科会に分かれ、意見交流会を持ちました。



1 国語



2 算数・数学



3 社会



4 理科

★★分科会テーマ★★

- ① 授業で工夫しているところや課題となるところ
 - ② 子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状
 - ③ 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価・通知表など)
- <事務連携は、職務における連携、養護・栄養教諭は保健指導・食育について>



5 英語



6 体育



7 図工・美術・音楽・技家



8 事務連携



9 支援



10 養護・栄養教諭

【まとめ】

今回は、報告会を省き、分科会の時間を長く持ちました。各分科会とも充実した話し合いが行われました。分科会の詳しい内容につきましては、年度末に配付予定の「古江台中学校区幼小中連携教育研究報告集」をご覧ください。

<児童・生徒指導交流会>

5月15日(木) (16:00～17:00) 古江台中学校において、児童・生徒指導交流会を開催しました。

小学校は昨年度の6年生担任と生活指導担当、中学校は現1年生担任と生徒指導担当が集まり、現在の中学1年生の子どもたちの様子について情報交換をしました。

小学校の旧担任にとっては、中学校での新たな一面を知ることができ、また中学校の担任にとっては、小学校での様子を詳しく知ることができ、とても良い機会となりました。

＜古中 授業見学会・クラブ体験＞

10月23日（木）古江台中学校 13:30～14:15 5時間目 授業見学
14:30～15:15 クラブ体験

授業見学が、今年度から始まりました。初めて、中学生の授業を見学するので、とても興味深く、すべての教室をまわっていました。クラブ体験では、中学生がサポートのもと、小学校にはないクラブを体験したり、中学校のボールやゴールの大きさの違いを感じたりしました。生徒会執行部やクラブの部員とともに、6年生の皆さんには中学校のクラブ活動を楽しく実感してもらい、有意義な取り組みとなりました。中学生も後輩に直接接することで、来年に向けて、より意欲がわいたようです。



＜公開授業①＞

11月5日（水）5限 13:40～14:25 国語科 「注文の多い料理店」
津雲台小学校 5年1組 授業者 井上 良太 教諭

研究協議の始めに、授業者から『視点、解釈を重点的に取り組んできて、子どもからその発言がでたのは良かった。』学年からは『話を子ども中心でつなげることができたことがよかった。』『教材研究を深めるにつれて伝えたいことが多くなり、なにをどういう形で伝えるかを決定するのに悩んだ。』などの感想・意見が出ました。

続いてグループに分かれ、【話し手】【聞き手】【その他】の良かった点、改善点を出し合いました。

- 【話し手】良：・聞き手に対して体を向けて話しているのがよかった。
 - ・言い換えがあることでわかっていない子どもの発言の機会が増え、理解が深まる。
 - ・音読の声の大きさがよかった。
- 改：・発言者に偏りがあった。→グループ・ペア活動を行うことで発言の機会を増やす。
→意見を書く時間を確保してから発言の場を設ける。
 - ・発言内容が本当に合っているかの確認があればよかった。
- 【聞き手】良：・話し手に体を向けてうなずきながら話を聞いていた。
 - ・相手の意見を受けて反応していた。
 - ・聞き手のルール整備がきちんとされていた。
- 改：・適切な言葉遣いで反応できればもっとよかった。
 - ・発問、話し合いについてこられない子どもに対する支援があればよかった。→板書を用いて視覚的に支援をする。
- 【その他】良：・一文のまとめがあり、より理解が深まった。
 - ・教科書の縮小コピーが色分けされていて見やすかった。
- 改：・めあての掲示があればよかった。
 - ・ワークシートがあればより理解も深まるのではないか。
 - ・やりたいと言っていた内容をするために時間のマネジメントをすればよかったのではないか。



講師の長谷川秀子様からは、指導案について、『読む術について詳しく書かれているのがよかった。』『視点人物など前学年の学習からのつながりがあるのがよかった。』さらに授業については、『学校全体で聞き手の育成ができています。』『文学作品の読み取りは個人差が出やすいので、それを踏まえて発問を考える。』『発言者の偏りについては、書く→ペア対話→全体の流れで発言しやすくなるのではないか。』『めあての掲示→確認・振り返り→一文にまとめる→自己評価までできるとよかった。』と講評いただきました。



＜公開授業②＞

11月18日（火）6限 14:35～15:25 国語科 「国語で生きる～数学編～」
古江台中学校 1年2組 授業者 梅阪 祐司 教諭

国語において、文章を読み取る力はとても大切です。しかし、私たちの生活において、文章以外から得る情報（例えば、写真・イラスト・グラフ・表など）は多大にあります。生徒の「生きる力」を育むため、今回の研究授業では数学の式から問題文を考える活動を行いました。式という抽象的な情報を、問題文という具体的な言葉に置き換えることに苦戦する場面もありましたが、最終的には多くの生徒がより難しい問題へと取り組む姿が見られました。生徒たちとともに、言葉で説明することの難しさを感じるとともに、言葉の持つ可能性に気づくことができました。



＜公開授業③＞

11月18日（火）6限 14:35～15:25 道徳 「マララ・ユスフザイさんの体験を通して」
古江台中学校 2年4組 指導者 藤田 亜矢子 教諭

今年のノーベル平和賞受賞者マララ・ユスフザイさんの手記「わたしはマララ」から作成した資料をもとに、大切だと思ったキーワードをあげ、自分の生き方について考える授業をしました。いつもの授業と違う雰囲気



に緊張していた生徒もたくさんいましたが、グループ活動では協力してキーワードを考えることができました。実際のスピーチの映像に、生徒たちは皆、食い入るようにスクリーンを見ていました。最後の意見交流の時間があまり取れなかったのが残念ですが、「こんな自分でも世界を変えられるんだ」と発表してくれた男子生徒の姿が印象的でした。

研究協議

講師：鳴門教育大学 大学院講師 泰山 裕 様

「言語活動」「思考力と思考のスキル」「思考の補助」の3つに焦点をしばって、講演がおこなわれました。

【国語】

言葉は記号であり不完全なものであり、人間は思考の道具として言語を用いている。また、情報と収集は別のものである。今回の授業では、日常生活と対応させながら式を理解し文章化することによって言語活動をおこなうことができていた。抽象度の高い情報を言語で読み取れるような働きかけが、もう少し必要であった。また、文脈や目的に応じて読み取ったり活用したりする補助の重要性についても話された。

【道徳】

生徒がたくさんキーワードを書くことができ、意欲的に取り組んでいた。最後に意見を発表する場があったが、話し合いを深める時間がもっとあればよかったのではないかと、また、盛りだくさんな内容であったが、何を見てどう感じたのかを表現することを重視すべきであると指摘され、「マララさん」「平和」「勇気」「教育」などといったワードの関連づけ方について例を示され、過程を残す大切さを強調された。

【まとめ】

- ・教科に応じた言語活動が豊かになるように今後も考えていきましょう。
- ・目標を具体化し、児童・生徒の思考を深める手立てを考えましょう。



1月30日(金) 15:30~17:00 古江台中学校

古江台中学校ブロック冬季合同研修会 開催

3校1園の教職員 53名 参加

講演会「小中一貫教育の実践」

講師 箕面市立とどろみの森学園 教頭 陸奥田 維彦 様

他県他市の取組も紹介していただきながら、とどろみの森学園での特色ある取組や小中一貫教育で大切にしていること、課題解決型学習・学び合いなどについて、お話ししていただきました。

教えたつもりになっていないか？

教師が教えたつもり授業、教える授業

→学ばせる授業、子どもが学べる・力をつける授業

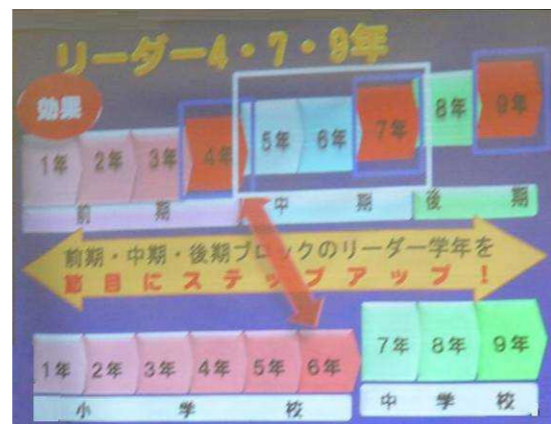


全国 小中一貫教育の取組が増えている 教員免許…小中共通へ
〈小中一貫の成果と課題〉
課題…打ち合わせ時間の確保、負担感、多忙感
成果…中1ギャップの緩和、中1への不安が減る など

つくば・春日学園…
思考ツールを下敷きにして
子どもに配付
→ 授業に使える

箕面市 小中一貫教育は、連携型・施設一体型の二種類（とどろみの森学園，彩都の丘新設）
全学年の児童・生徒に学力・体力・生活状況調査
ニュージーランド・ハット市との交流
スカイプにて英語の交流

とどろみの森学園 大阪府公立初の小中一貫校
前期(1年~4年)中期(5年~7年)後期(8,9年)
リーダー学年 … 4, 7, 9年生
前期(1年~4年)は、集団登校(4年が班長)
中期(5年~7年)は、制服
前・中期卒業式…6年の卒業式は簡単なもの
入学式は1年生のみ



5年生から50分授業、教科担任制

5, 6年生は期末考査がある

校区研究(年3回)幼稚園・保育園も見に行く

幼稚園と中学校との交流(運動会にて)

不登校児童・生徒検証シートは共通のものを使用している(校区で)

〈学びの連続性の確立 ~「授業・保育」でつなぐ幼・小・中一貫教育~〉

授業スタイル・学習ルールがクラス間、学年で変わると、児童・生徒がそれに合わせることにエネルギーを使ってしまう。クラス・学年を通しての取り組み、組織的な取り組みを揃えることを行っている。“連携すべきは授業”である。



- 小中一貫の授業
・指導の一貫性
・内容の系統性

どんな学習活動が必要なのか

→ 思考力、判断力、表現力 ふりかえり

課題解決型 1時間の授業の中で

1人タイム → グループタイム → 全体 → まとめ → ふりかえり

学び合い

自力解決

グループ 根拠を持ち、共通点・相違点を整理

気づかなかった点は赤でノートにつける(多様な考えが出てくる)

『教えてあげましょう』はNG

『わからないことがあったらできた人にたずねよう』(答え合わせ)

グループ交流 根拠をもとに一つにしぼる(相手の考えを聞きながら、調整していく)

何をどう交流するか、交流の目的・活動の必要性を明確にする

学び合いとは…人間関係ができていること

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを深め、高め、発展させる活動

学び合い活動をさせる時、『それぞれの考えを交流しよう』のみで始めませんか？!

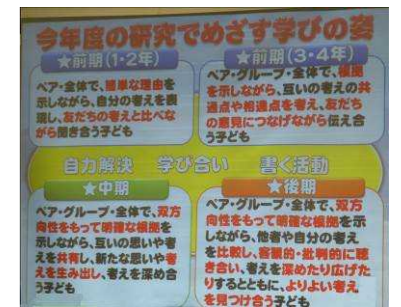
「伝え合う」⇔「伝える」

友だちの考えを自分の考えと比べながら聞いていること
聞いた考えをもとに、自分の考え絵を振り返って、自分の良い点や誤りに気づき、加筆・修正等、再度相手に自分の考えを述べること

↓ 上記の繰り返し

考えを深めたり広げたりする

一方向ではなく、双方向や広がり意識させて交流させる



呉市…教えて、学びさせる

秋田・由利本荘市…発表者に身体ごと向ける、うなずく(中学生も)

学習のルールを同じにする。

(机上には必要なものだけ、ロッカーの使い方、ノート指導)

自問戦争→しゃべらない、もくもくとする

学習課題の提示、学び合い

質疑

Q : 研究授業の後の研究会の持ち方は？

A : 小中一緒 付箋を使っている(ピンク:課題、黄色:成果) 全員参加型

授業の流れではなく、研究テーマがあって、その(学ぶ姿に向かわすための)手立てのみについて授業者は反省。参加者もその手立てのみだけについて考える。子どもがこんな発言をしたから〇〇だと言える。

ジョイント +++ プラス

H26年4月21日 古中にて

出席者 古中 射場校長 明智教頭 阿部 廣瀬
(敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本 大野

話し合われたこと

1. 本年度のテーマ 「言語力の育成」
2. ブロック推進委員会日程
 - ①4/21(月) ②5/19(月) ③6/19(木) ④7/11(金)
 - ⑤9/19(金) ⑥10/24(金) ⑦11/14(金) ⑧12/12(金)
 - ⑨1/16(金) ⑩1/30(金)【冬季研】 ⑪2/24(火)
3. 本年度の取組について
 - (1) 夏季合同研修

日時	7月29日(火) 13:00~受付 13:35~
会場	未定(各校の校長先生にあたってもらう。)
講師	未定(奥 清二郎先生に益原校長より調整・依頼してもらう。)
テーマ	未定
分科会	テーマについて検討が必要ではないか。 分科会ごとの報告では時間がかかる。報告書にまとめる方法でもよいのではないか。
 - (2) 公開授業

中学校は毎年、小学校は津雲小と古江台小が隔年実施する。
今年度は、古江台中：2教科+道徳か1教科+道徳
津雲台小：国語 で行う。
 - (3) クラブ見学(体験型)

日時 10月17日(金)か24日(金)(予定) ※詳細は後日決める。
 - (4) 冬季合同研修

日時 1月30日(金) 15:30~(予定)
4. 小中一貫教育推進事業予算について

予算7万円(報償費) 内訳は次回以降に決定する。
5. その他
 - (1) 古江台中学校ブロック幼小中連携組織図について
推進組織等について、確認した。(右図)
 - (2) 古中 入学説明会 2月4日(水)
小学校の参観日(保護者に関わる行事の日)は避ける。
 - (3) 「吹田市小中一貫教育実施プランⅡ」について
 - ・今後、小学校1年から英語の授業が始まるのに伴い、小学校間の英語のカリキュラムのすり合わせが必要になるのではないか。
 - ・めざす子ども像を考えて、ブロックとしてレベルアップしていきたい。推進委員会が中心となり考えていく。

次回推進委員会 日程 5月19日(月) 16時~ 古中「会議室」

平成26(2014)年度 古江台中学校ブロック

(古江台中学校 古江台小学校 津雲台小学校 古江台幼稚園)

古中ブロックのテーマ 小中一貫教育の推進(幼小中連携・学力向上)
各教科・領域における言語力の育成

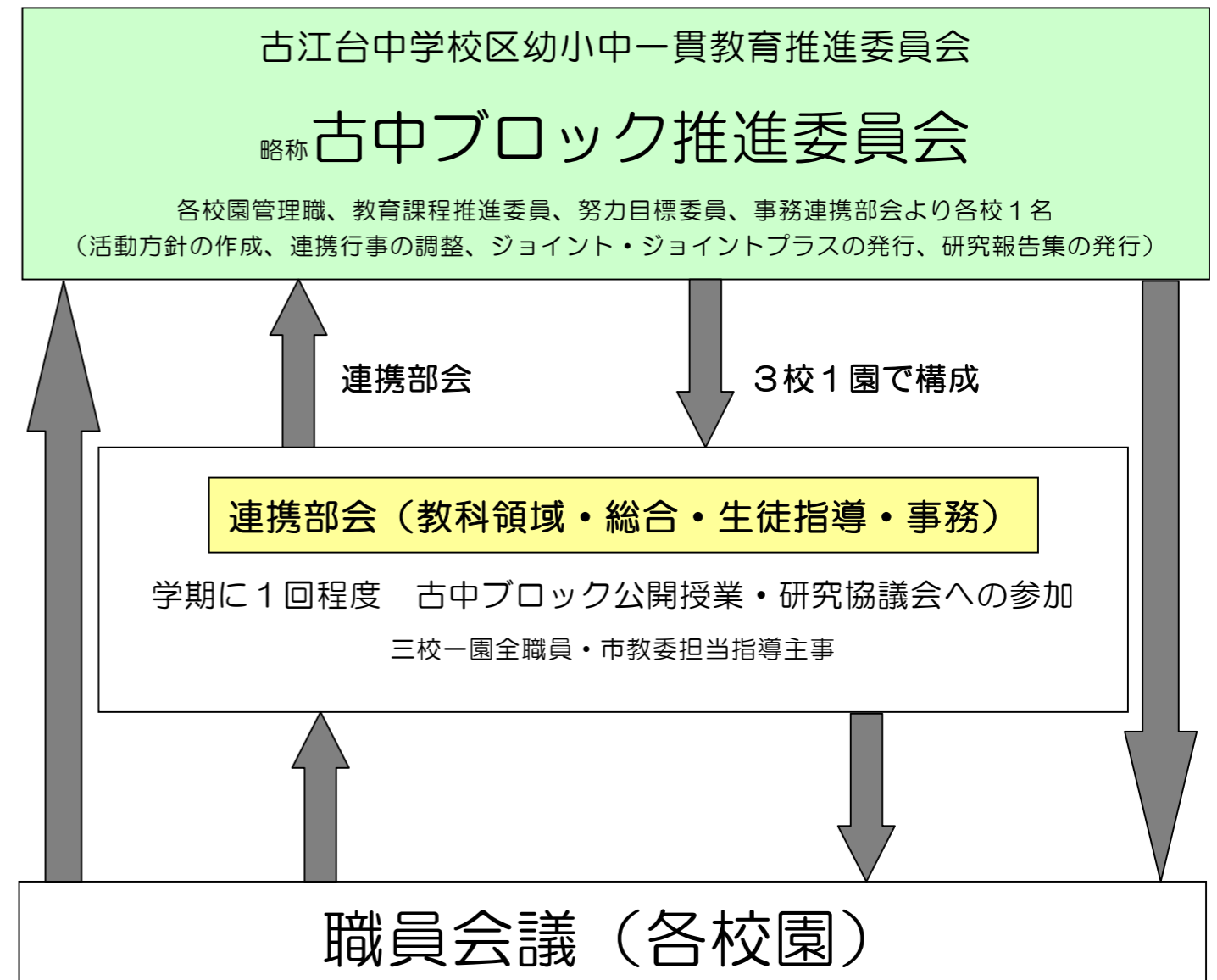
『言語力育成』の取り組み

- ・言語力育成プラン
- ・言語力向上のための「古中ブロック スタンド」
- ・古中ブロックの100冊の本

『生徒指導部』

- ・古中ブロックABC運動
(A あいさつ B ベル着 C クリーン)
- ・授業規律9ヶ条

幼小中一貫教育組織図



第2回古中ブロック推進委員会報告

ジョイント + + + フラス

2014年5月23日 古中にて

出席者 古中 射場校長 明智教頭 阿部 廣瀬
(敬称略) 古小 益原校長 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本 大野
古幼 堂野

話し合われたこと

1. 夏季研修会について

7月29日(火) 吹田市立教育センター 13時～17時

13時00分～13時30分 準備・受付(視聴覚室)

13時30分～15時00分 講演会(視聴覚室)

15時00分～15時20分 休憩・移動・分科会準備

15時20分～16時40分 分科会

(視聴覚室、第1会議室、第2会議室、地下木工室)

16時40分～17時00分 後片付け

【講演】「幼小中一貫教育における言語力の育成」

講師 大阪聖母学院小学校 教諭 奥 清二郎 様

- ・幼児教育から小学校教育、小学校から中学校へ
- ・発達段階に応じた授業(幼・小・中)
- ・授業実践
- ・模擬授業
- ・質疑応答

講演内容は今後、奥先生と相談していく。

準備物: プロジェクター、スピーカー、スクリーン(パソコンは持ち込み)

事前に操作等を確認しておく。(担当: 大野)

【分科会(案)】

テーマ・討議内容

- ・各教科、領域で授業で工夫しているところや課題となること
- ・子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状
- ・各教科、領域ごとの情報交換(児童生徒の現状と課題、授業、テスト、評価・通知表など)

昨年のような報告会・全体まとめはなくし、(詳しく、簡潔に)各校で文書報告することにする。
教科・領域ごとの下記10のグループに分かれて討議する。

- ①国語 ②算数・数学 ③社会 ④理科 ⑤英語 ⑥体育 ⑦図工美術・音楽・技術
- ⑧事務 ⑨養護・栄養 ⑩支援

2. 公開授業について

古中ブロック公開授業

- ・古江台中学校 道徳公開研究授業 → 2学期に予定
- ・津雲台小学校 古中B公開研究授業 → 11月5日(水) 5年国語

校内公開授業

- ・古江台小学校 → 7月9日(水)、11月7日(金)、
2月12日(木)
- ・津雲台小学校 → 6月27日(金) 2年

3. 冬季研修会について

日時 平成27年1月30日(金) 15時30分～予定

次回以降で検討・決定する。 ← テーマ、講師について検討しておく。

4. その他

(1) 小中一貫教育推進事業予算について

予算7万円(報償費) 内訳: 夏季研修 1万円
冬季研修 2万円
古江台中 1万円
古江台小 1.5万円
津雲台小 1.5万円

(2) 「吹田市学校教育の概況」について→別紙参照

「吹田市学校教育の概況」掲載の「古中ブロックのめざす子ども像」と「言語力育成」におけるめざす子ども像について各校で検討する。→次回修正報告

(3) 古中ブロックの目標について→別紙参照

- ・長期目標(5年後の姿)について今後つめる必要があるのではないか。
- ・授業見学とクラブ体験を同時にするなどして、6年生の中学校体験学習の充実を図ることが今年の課題である。
- ・小学校と中学校の子どもとの交流が弱い。
- ・幼稚園でも、外国人児童を通して国際理解教育をしている。幼・小低学年の国際理解教育交流もできるのではないか。
- ・幼小のつながりなども保護者に知ってもらえればと思う。幼稚園の子どもの様子や取り組みもみてほしい。

次回推進委員会 日程 6月19日(木) 16時～ 古中「会議室」

「古中ブロックのめざす子ども像」と「言語力育成」におけるめざす子ども像について各校が修正報告

第3回古中ブロック推進委員会報告

ジョイント + + + プラス

2014年6月19日 古中にて

出席者 古中 射場校長 明智教頭 阿部 廣瀬
(敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本 大野
古幼 堂野園長代理

話し合われたこと

1. 夏季合同研修会について

日時：平成26(2014)年7月29日(火)

場所：吹田市立教育センター

時程：13時00分～13時30分 準備・受付(視聴覚室)

13時30分～15時00分 講演会(視聴覚室)

15時00分～15時20分 休憩・移動・分科会準備

15時20分～16時40分 分科会

(視聴覚室、第1会議室、第2会議室、地下木工室)

16時40分～17時00分 後片付け

講演：「幼小中一貫教育における言語力の育成」

講師 大阪聖母学院小学校 教諭 奥 清二郎 様

分科会：教科・領域ごとの下記10のグループに分かれて討議する。

①国語 ②算数・数学 ③社会 ④理科 ⑤英語 ⑥体育 ⑦図工美術・音楽・技術

⑧事務 ⑨養護・栄養 ⑩支援

テーマ・討議内容

- ・各教科、領域において授業で言語活動・言語力育成で工夫しているところや課題となるところ
- ・子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状
- ・各教科、領域ごとの情報交換(児童生徒の現状と課題、授業、テスト、評価・通知表など) 昨年のような報告会・全体まとめはなくし、各グループで記録担当が記録用紙に記入。紙媒体の記録用紙を各校の事務職員が研究報告集用にデータ化する。

参加者名簿

※各校で事務職員が取りまとめ、次回ブロック会議に持ち寄る。

※分科会の司会・進行係、記録係は参加者名簿に従って各校で決める。

準備物：プロジェクター、スピーカー、マイク2本、受付セット(パソコンは持ち込み)
付箋、ペン

2. 冬季合同研修会について

日時：平成27年1月30日(金)15時30分～

テーマ(案)：国際理解教育カリキュラムについて

昨年度お話しいただいた小田浩伸先生の話の続きについて

※各校でテーマと講師を検討し、次回の推進委員会に持ち寄る。

3. 「古中ブロックのめざす子ども像」と「言語力育成におけるめざす子ども像」についての各校の修正報告

ブロックとしての「めざす子ども像」(案)

- 自ら考え努力し、工夫し、他者と協力する子
- やさしい心を持ち、命を大切にする子
- 学習も奉仕活動も進んでする子

※各校で報告し承認をとってから「吹田市学校教育の概況」に掲載する。

※次回以降、「言語力育成におけるめざす子ども像」についても検討していく。

4. その他

・古江台幼稚園研究授業の保育指導案について

保育指導案を研究報告集に掲載する。

掲載する内容は報告集作成の時に古幼と確認していく。

・吹田市 小学校における外国語活動特例校の募集について

古小と津雲小の両方で応募するかどうかを検討する。結果は推進委員会で報告する。

・「ジョイント+++プラス」、「ジョイント」について

① 「ジョイント+++プラス」(推進委員会報告)

1学期…古中、2学期…津雲小、3学期…古小
古中ブロック内の全教職員に配付。

② ジョイント(連携通信：年3回)

1学期…古小、2学期…古中、3学期…津雲小

古中ブロック内の全教職員に配付、古中ブロック以外の市内全小中学校と教育センター、指導課に送付。

次回推進委員会 日程 7月11日(金)16時～ 古中

各校で 1. 夏季研の参加者名簿 2. 冬季研のテーマと講師を持ち寄る。

3. ブロックとしての「めざす子ども像」の承認をとる。

第4回古中ブロック推進委員会報告

ジョイント + + + フラス

2014年7月11日 古中にて

出席者 古中 射場校長 明智教頭 阿部 廣瀬
(敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本 大野
古幼 堂野園長代理

話し合われたこと

1. 夏季合同研修会について

・時程〔担当〕【場所】

平成26(2014)年7月29日(火) 吹田市立教育センター

12:45 2階研修室前集合〔推進委員会メンバー+古小教頭・津雲小教頭〕
会場の使用(空き)状態により会場準備を始める。
全体会【視聴覚室】の椅子が足りない。講師用を含め15脚追加する。

13:00 ~ 13:30 受付〔事務連携〕
会場準備〔推進委員会メンバー+古小教頭・津雲小教頭〕
講師出迎え・接待〔古江台小 益原校長〕
【1階ロビー → 3階 小会議室】

13:30 ~ 13:35 全体会開会〔司会:古江台中 阿部〕〔記録:古江台小〕
はだしの挨拶・講師紹介〔古江台小 益原校長〕

13:35 ~ 14:55 講演会〔大阪聖母学院小学校 教諭 奥 清二郎 様〕
「幼小中一貫教育における言語力の育成」
【2階 視聴覚室】

14:55 ~ 15:00 全体会閉会
質疑応答、お礼の言葉〔津雲台小 有岡校長〕

15:00 ~ 15:20 移動・休憩
分科会準備〔事務連携〕
講師接待・見送り〔古江台小 益原校長〕
【3階 小会議室 → 1階】

15:20 ~ 16:40 分科会・交流会
【2階 視聴覚室〈4分割〉①国語 ②算数・数学 ③社会 ④理科
2階 第一会議室〈3分割〉⑤英語 ⑥体育 ⑦図・美・音・技・家
1階 第二会議室 ⑨支援
地下工芸室〈2分割〉⑧事務 ⑩養護教諭・栄養教諭】

16:40 ~ 17:00 後片付け〔推進委員会メンバー+古小教頭・津雲小教頭〕

・準備物、役割〔担当〕

開催案内文作成〔事務連携〕

講師連絡〔古小 益原校長〕

講師接待(出迎え・見送り)〔古小 益原校長〕・講師用お水・紙コップ用意〔事務連携〕

講演会資料〔事務連携〕

受付名簿(参加者名簿にて)〔事務連携〕

案内・貼り紙〔事務連携〕

分科会記録用紙、付箋、ペン〔事務連携〕

・分科会について

事務と養護教諭・栄養教諭は、今の分科会のテーマでは話しにくいのではないかと。

→事務と養護教諭・栄養教諭はテーマを替えて記録用紙を別に作成する。

分科会記録は記録担当者が内容を整理する。記録を読めば当日の内容がわかるようにする

→記録担当者は当日または後日、まとめた記録用紙を各校の事務職員に提出する。

・研修案内は、古中ブロック各校園教職員に加えて、指導課、市教育センターにも送付する。

2. 冬季合同研修会について

日時 平成27年1月30日(金) 15:30~

テーマ(講師)について

・第1候補「小中一貫教育の実践」、「施設一体型の小中一貫教育」

→箕面市立とどろみの森学園の講師と連絡・調整する。(担当:古江台中 射場校長)

・第2候補「幼小中の外国語活動」

→講師について検討、連絡・調整する。(担当:津雲台小 有岡校長)

3. その他

・「古中ブロックのめざす子ども像」について

自ら考え努力し、工夫し、他者と協力する子

やさしい心もち、命を大切にする子

学習も奉仕活動も進んでする子

決定した内容を「吹田市学校教育の概況」に掲載する。

・吹田市 小学校における外国語活動特例校の募集について

古江台小と津雲台小が申請する。

・研究授業について

教育委員会より、研究授業後にブロック全体で研究協議をするのは珍しいとのこと。

11月5日の津雲台小学校と2学期予定の古江台中学校での研究授業案内を教育委員会にも送付する。

夏季合同研修会	7月29日(火) 13時~	市教育センター
次回推進委員会	9月19日(金) 16時~	古中

ジョイント + + + フラス

2014年9月18日 古中にて

出席者 古中 射場校長 明智教頭 阿部 廣瀬
 (敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 冲家
 津雲小 有岡校長 寺本 大野
 古幼 堂野園長代理

話し合われたこと

1. 夏季合同研修会反省

- 日程 … ・良かった。参加しやすかった。
- 場所 … ・良い。夢つながり未来館ならもっと良かった。
 ・全体会が参加者でいっぱいだった。もう少し広い会場があれば良い。
- 構成 … ・分科会の後、まとめ、報告会を無しにして良かった。昨年までの方が良かったという意見もあった。
- 講演会 … ・実体験を踏まえた講演で良かった。
 ・実践例が多く良かった。
 ・成功例ばかりだったので…。
- 分科会 … ・中学校との交流で『中学校で大事にしていること』『小学校でここまで教えておいてほしいこと』などがわかり良かった。
 ・テーマが昨年までとあまり変わらず、話し合いが進展しなかった。

2. 冬季合同研修会について

- 日時 … 平成27年1月30日(金) 15:30～
- 場所 … 古江台中学校 集会室
- 講師 … 箕面市立とどろみの森学園 校長先生か教頭先生
 ※テーマについて要望があれば、古江台中学校：射場校長先生に連絡する。

3. 今後の日程

(1) ①古中B公開研究授業

- 11月 5日(水) 5限 津雲台小 5年1組 国語「注文の多い料理店」
 13:40～14:25 研究授業
 14:40～17:00 研究協議 助言 大阪教育大学 講師 長谷川秀子 様
- 11月18日(火) 6限 古江台中 1年2組 国語
 14:35～15:25 研究授業
 15:45～17:00 研究協議

②古中B道徳公開授業

- 11月18日(火) 6限 古江台中 2年4組 道徳
 14:35～15:25 研究授業
 15:45～17:00 研究協議

※教育委員の方も関心があるので、教育委員会にも案内文を送る。

(2) 授業見学、クラブ体験・見学会

- 10月23日(木) 5限・6限
 13:30 古江台小・津雲台小 6年児童 古江台中学校体育館 集合整列
 各クラスが1年と3年の授業を10分程度、見学する
 14:30 小学6年児童 体育館 集合整列
 挨拶、移動の指示(生徒会執行部)
- 14:35 体験・見学開始
- 15:20 体験・見学終了
- 15:25 小学6年児童 体育館 集合整列
 挨拶(生徒会長)
- 15:30 解散

※詳細については、後日、古江台中学校より文書が逡送にて送られる。

(3) 校内公開研究授業・研究保育、オープンスクール

- 9月25日(木) 12:40～13:40 古江台幼 年長 「色を探そう！」
- 10月23日(木) 24日(金) 全日 古江台中 オープンスクール
- 10月31日(金) 6限 津雲台小 4年1組 国語「みんなで話し合っ」
- 11月 7日(金) 6限 古江台小 4年2組 国語「連詩にちょうせんしよう」
- 11月28日(金) 限 津雲台小 3年2組 国語
- 1月29日(木) 3限 津雲台小 1年2組 国語「ジャンケンやさんをひらこう」
- 2月12日(木) 6限 古江台小 2年 国語

(4) 校内研修会

- 11月26日(水) 津雲台小 15:00～
 外国語活動研修会 講師:高槻市立大冠小学校 引山教諭
 ※校内研修会についても、案内文を作成し、古中、古小、古幼に送る。

4. その他

- (1) 「夏季合同研修会 分科会まとめ」を各校で配付してください。
- (2) 古中ブロックホームページの開設と各校園ホームページのリンクについて
 古中ブロックの取組を紹介するホームページを作る。(津雲台小HP内)
 各校ホームページのトップページに、古中Bおよび他の校園HPへのリンクを設ける。
 情報サポーターの協力を得ながら、事務連携で作成・更新を行う。
 詳細は、内容(階層等)が決まってから、再度提案する。
- (3) 「ジョイントNo.26」を吹田市各幼稚園・小中学校、教育委員会、教育センターに送ります。

次回、推進委員会

10月24日(金) 16:00～ 古江台中 会議室

ジョイント + + + フラス

2014年10月24日 古中にて

出席者 古中 射場校長 明智教頭 阿部 廣瀬
(敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本 大野
古幼 堂野園長代理

話し合われたこと

1. クラブ体験・見学会の反省

前日(23日)の行事であったため、小学校の反省、アンケート結果は次回に報告し、検討する。

2. 冬季合同研修会について

日 時 … 平成27年1月30日(金) 15:30~

場 所 … 古江台中学校 集会室

講 師 … 箕面市立とどろみの森学園 教頭先生(予定)

テーマ … 「小中一貫教育の実践」

(連絡 … 古江台中学校:射場校長先生)

3. 今後の日程

(1) 古中B公開研究授業

11月 5日(水) 5限 津雲台小 5年1組 国語「注文の多い料理店」

13:40~14:25 研究授業

14:40~17:00 研究協議 助言 大阪教育大学 講師 長谷川秀子 様
全体会、グループ討議(3教室6グループ)、全体報告・講評の構成で行う。

11月18日(火) 6限 古江台中 1年2組 国語

(2) 古中B道徳公開授業

11月18日(火) 6限 古江台中 2年4組 道徳

14:35~15:25 研究授業(国語・道徳)

15:45~17:00 研究協議 集会室にて

講評 鳴門教育大学 泰山 裕 様、市教委

(3) 校内公開研究授業

10月31日(金) 6限 津雲台小 4年1組 国語 みんなで話し合っ

11月 7日(金) 6限 古江台小 4年2組 国語 連詩にちょうせんしよう

11月28日(金) 6限 津雲台小 3年2組 国語 こちら、「子ども相談室」

1月29日(木) 3限 津雲台小 1年2組 国語 ジャンケンやさんをひらこう

2月12日(木) 6限 古江台小 2年 国語

(4) 校内研修会

11月26日(水) 津雲台小 15:00~

外国語活動研修会 講師:高槻市立大冠小学校 引山教諭

4. 小中一貫教育推進事業予算について

予算7万円(報償費) 内訳:夏季研修 1万円

冬季研修 2万円 → なし

古江台中 1万円 → 2万円

(11/18 古中B公開授業で執行)

古江台小 1.5万円 → 2万円

津雲台小 1.5万円 → 2万円

5. その他

次回、各校の学力・学習状況調査結果について報告する。保護者への公表の時期を合わせる。

次回、推進委員会 11月14日(金) 16:00~ 古江台中 会議室

ジョイント + + + フラス

2014年11月14日 古中にて

出席者 古中 射場校長 阿部
(敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本 大野

話し合われたこと

- 古江台中学校 授業見学・クラブ体験について
 - 英語の授業をすべて英語で進めるなど、驚きと発見があった。
 - もう少し、集合を遅らせて短くてもよかった。
 - 2年の授業も見せていただいた。ただ、事前に決められたままの方がよかったのではないか。6年児童の集中力も持たなかった。
 - (集合場所など迷惑になることもあるかもしれないが、) 小学校どうしの交流の機会を持つことも考えてはどうか。
 - 今年は授業見学もさせてただけで、とても良かった。
 - クラブ体験では中学生に色々といねいに教えてもらいながら楽しんでいた。

2. 冬季合同研修会について

日 時 … 平成27年1月30日(金) 15:30～
場 所 … 古江台中学校 集会室
講 師 … 箕面市立とどろみの森学園 教頭先生(予定)
テーマ … 「小中一貫教育の実践」

連絡・調整 … 古江台中学校 射場校長先生
当日司会 … 阿部先生

4. 来年度夏季合同研修会について

開催時期…7月末、場所…夢つながり未来館を第一希望として調整していく。

5. 学力・学習状況調査について

【古中】

- 国語A・Bは平均正答率をやや上回り、数学A・Bはともに平均正答率を上回る良好な結果であった。
- 国語Aでは無回答率も低い。国語Bでは記述式問題で自分の考えを表現する力に問題がある。
- 数学ではA・Bともに無回答率が低かった。数学Aでは正しい図を選択する力や数量の関係を言葉で表す力、数学Bではきちんと説明する力や根拠をはっきりさせる力に課題があった。
- 家庭での学習時間は全国より上回っているが、1時間未満の生徒の割合が昨年度より増加した。

【古小】

- 国語A・B、算数A・Bともに平均値を上回っている。
- 国語Bで、「書く」ことの正答率が低かった。

- 「国語の勉強は好きだ」、算数の「授業の内容がよくわかる」、「読書が好き」は、全国平均値を上回っている。
- 国語の「授業の内容がよくわかる」は全国平均値とほぼ同じ。「算数の勉強は好きだ」は、全国平均値を下回っている。
- 「授業で学習したこと、将来、社会に出たときに役に立つと思う」は、国語で下回り、算数でやや下回る結果であった。
- できているのに自信がない児童が多い。自己肯定感、自尊感情を高めたい。

【津雲小】

- 国語A・B、算数A・Bともに全国値を上回り良好である。
- 国語B、算数Bにおいて、最後の設問の無回答が多かった。時間が不足にいたことが考えられる。長い問題文に慣れることやスピードを上げ問題を解くことも進めたい。
- 自尊感情を高める取り組みを進めたい。
- 「新聞を読んでいる」習慣のある子は学力が高いというデータが出ているが、本校でもその傾向が見受けられた。
- 読書は好きだが、読む児童と読まない児童の二極化している。

保護者への公表は、3校とも11月28日に行う。また、各校ホームページ(トップページにリンク)にも12月中旬に掲載する。

6. 言語力育成モデルについて

「(教科・領域別)言葉の増やし方、使い方、思考の深め方」の改訂について、各校園で追加等の検討を行い、次回の推進委員会に持ち寄る。

7. 今後の日程

(1) 古中B公開授業

11月18日(火) 6限 古江台中 2年4組 道徳、1年2組 国語
14:35～15:25 研究授業(道徳、国語)
15:45～17:00 研究協議 集会室にて
講評 鳴門教育大学 泰山 裕 様、江下指導主事

(2) 校内公開研究授業

11月28日(金) 5限 津雲台小 3年2組 国語 こちら、「子ども相談室」
1月29日(木) 3限 津雲台小 1年2組 国語 ジャンケンやさんをひらこう
2月12日(木) 6限 古江台小 2年1組 国語 2年1組、はつ明じむしよ

(3) 校内研修会

11月26日(水) 津雲台小 15:00～
外国語活動研修会 講師:高槻市立大冠小学校 教諭 引山 大士 様

8. その他

次回の推進委員会開催を1月16日(金)に変更する。

次回、推進委員会 1月16日(金) 16:00～ 古江台中 会議室

第8回古中ブロック推進委員会報告

ジョイント + + + プラス

2015年1月16日 古中にて

出席者 古中 射場校長 明智教頭 阿部 今西
(敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本 大野

話し合われたこと

1. 古中ブロック公開研究授業(道徳・国語)の反省について

[11月18日古中にて実施]

- ・お忙しい中、多くの参加ありがとうございました。
- ・泰山先生や指導課からも公開授業を見に来てもらえて良かった。
- ・毎年、中学校が授業を公開されていることがすばらしいと思う。
- ・道徳はブロック内で持ち回りの授業公開となっている。来年度は津雲小となる。

2. 古中ブロック冬季合同研修会について

日 時：1月30日(金) 古中(集会室) 15時30分～17時
(受付; 15時15分～)

講 師：陸奥田 維彦先生(箕面市立とどろみの森学園 教頭)

テーマ：「小中一貫教育の実践」

役 割：講師との連絡(古中 射場校長)

受付(事務連携)

司会(古中 阿部)

はじめの挨拶、講師紹介(古中 射場校長)

おわりの挨拶(津雲小 有岡校長)

準備物：スピーカー、プロジェクター、スクリーン、スリッパ、受付名簿

資料印刷90部(古中へメールにて原稿が届く予定)

3. 来年度の夏季合同研修会について

日 程：7月末に実施 ※校長夏季研修を考慮する。

会 場：夢つながり未来館の予定

4. 言語力育成について

言葉の増やし方、使い方、思考の深め方の改訂について、各学校が発表

追加内容

<言葉の増やし方>

低学年

- ・伝言ゲーム(津雲小)

<言葉の使い方(運用)>

低学年

- ・「はじめに」「つぎに」など、文章の言い方(話型)を提示する(津雲小)
- ・質問、感想を述べる。メモをとる。一行日記(津雲小)

中学年

- ・異学年間で、調べたことなどの伝え合いの機会を設ける(津雲小)

<言葉での思考の深め方>

低学年

- ・想像に合った言葉を使い、物語を書く(古小)
- ・グループでの発表、お互いに評価し合う、自己評価・相互評価(津雲小)

中学年

- ・ミニ討論会(古小)
- ・各教科の中でキーワードを使った学習のまとめを書き、伝え合う(津雲小)
- ・場面に応じた言葉に、折にふれ直させる話し言葉と書き言葉の違いをはっきりさせる(津雲小)

※古中は次回の推進委員会で言語力育成モデルの追加・訂正内容を持ってくる。

5. 今後の日程

1月29日(木) 3限 津雲小 1年2組 国語 「ジャンケンやさんをひらこう」

2月12日(木) 6限 古小 2年1組 国語 「2年1組、はつ明じむしょ」

⇒詳細は各校の事務職員にメール配信します。

6. その他

【小中一貫教育推進事業(古中ブロック) 予算 70,000円(報償費のみ)】

- ・津雲小の今後の執行状況を踏まえ、5,000円を古小で追加執行します。

【古江台中学校区幼小中連携教育研究報告集について】

- ・ジョイントプラス、ジョイント、公開授業指導案、事務連携、活動内容、言語力育成モデル、議論のルール、古中ブロックABC運動等を掲載
- ・公開授業指導案の電子データ(A4サイズ)を印刷のため準備しておく。
- ・報告集の冒頭提言(A4、1枚)は省く。
- ・報告集の各学校長・園長挨拶「古中ブロックの取り組みについて」
A4 1/2枚で原稿依頼、各学校の事務職員へ2月13日 原稿締切。

【小中一貫教育代表者会について】

- ・2月13日に各中学校ブロックより管理職が1名参加します。
指導課より『小中一貫教育実施プランII』の説明後に、ブロックの取り組み紹介がある。その中で今年度作った古中ブロックとしてのHPを紹介する。

【学校教育自己診断について】

- ・全国学力・学習状況調査同様に、保護者向けに配布した内容をHPに掲載する。
各学校とも2月13日までに作業をしておく。掲載は当該年度のみとする。

次回推進委員会 2月24日(火) 16時～ 古中にて

第9回古中ブロック推進委員会報告

ジョイント + + + プラス

2015年2月24日 古中にて

出席者 古中 射場校長 阿部 今西
(敬称略) 古小 益原校長 世古 柚田 沖家
津雲小 有岡校長 寺本
古幼 堂野園長代理

話し合われたこと

1. 古中ブロック冬季合同研修会について

- ・小学校としては、参加しやすい時期であった。中学校は、学年末テスト・実力テストと重なったことで参加しにくかった。
- ・他校での小中一貫教育の取り組みを知ることができた。
- ・公立の小中学校でもカリキュラムや授業を工夫できるのだと感心した。
- ・小中一貫教育で一番大事なところは、授業のあり方が一貫していることだというお話が良かった。古中ブロックでも大事にしているところだから。
- ・小中学校の9年間でつきたい力を系統立てて実践されているところが参考になった。
- ・小中一貫教育に関わる課題と解決策、それと取り組む上での問題点についてももう少し詳しく話を聞きたかった。
- ・お忙しいとは思いますが、合同研修の開催時刻には全員がきちんと集まるようにしましょう。

2. 来年度夏季合同研修会について

日 程：7月29日(水) 13時30分～

会 場：夢つながり未来館(多目的ホールが使用できます。)

※講師およびテーマは、早めに決めるように各校園で相談しておいてください。

3. 言語力育成について

古中の追加項目

<言葉の使い方(運用)>

- ・ICTを積極的に取り入れることで、学習事項の理解を深める。(英語)

<言葉での思考の深め方>

- ・なぜ答えがそうなるのかを考える。(数学)

前回の小学校の追加・訂正と併せて言語力育成モデルを事務連携で修正する。幼稚園の追加・訂正があれば3月4日(水)までに行う。

4. 「古江台中学校区幼小中一貫教育研究報告集」について

- ・掲載内容と原稿担当校を確認
- ・校長あいさつは各校園が担当
- ・古 中：表紙、裏表紙、JOINT No. 27、ジョイントプラス1学期分、古中公開授業指導案
- ・津雲小：目次、年間活動内容、JOINT No. 28、ジョイントプラス2学期分、夏季研まとめ(分科会記録)、津雲小公開授業指導案、「言語力育成」モデル国語力向上「古中B」スタンダード、「議論のルール」生徒指導連携部会 ABC運動 規律、古中ブロック100冊の本
- ・古 小：JOINT No. 26、ジョイントプラス3学期分、事務連携部会
- ・古 幼：古幼公開保育指導案

- ・担当校の事務職員が原稿を作成し、3月4日(水)までに各校へ配信する。
- ・印刷は各校で行う。(コピー用紙で印刷し、全210部作成する。)
- ・3学期修了式までに、各校園、市教委、市教育センターへ冊子を送付する。
- ・古中ブロックの転出・転入教職員にも冊子を配付する。

5. 年度末反省(次年度へ向けて)

- ・小学校間で実態交流や児童同士の交流ができる機会があればよい。現在、実施しているクラブ見学に併せて検討してみてもどうか。
- ・中学校の体育祭に参加したり、授業を実際に体験するなど中学校との交流を増やしてみてもどうか。
- ・公開授業の日程が同じ月に重ならないようにする。
- ・小学校との授業内容の話を深めたい。夏季合同研修会の分科会を工夫してはどうか。
- ・教職員の異動が少なければ、以前のように生指交流会で中学校1～3年の生徒の現状交流をしたい。

6. H27年度第1回推進委員会日程について

4月20日(月) 16時～ 年間行事予定表を持参し、日程を決定する。

7. その他

【小中一貫教育代表者会について】

2月13日に益原校長が参加し、言語力育成モデルや100冊の本、取り組みを一つにまとめたHPを紹介しました。年3回の研究授業や中学校の毎年の研究授業、さらに幼稚園とともに取り組みを進めていることなどを報告しています。

【来年度の中中ブロック公開授業について】

1学期：津雲小(道徳)、2学期：古中(教科)、3学期：古小(教科)

次回 H27年度 第1回推進委員会

4月20日(月) 16時～ 古中にて(年間行事予定表を持参)

第 2 分科会		算数・数学	
司会・進行	濱口(津雲)	記録	濱口(古小)
<p>1. 授業で工夫しているところや課題となるところ (中学校)・<u>プリント使用</u>、書画、PC利用 ⇒ メリット 教科書みせない ノートをとる時間より、計算する時間が増える。 1、2年一斉、3年習熟別 → テストで判断 めあてがわかりやすい。休んでもわかるNo.づけ</p> <p>(小学校)・3、4年小人数指導 ・放課後学習(個別で) ・津雲小:ノートの書き方統一 ・高学年プリント使用(教科書みせない) ・問題解決型か、練習でわかる ・具体物利用(1年生時):津雲小:ブロックなし、古小:ブロック個人もち</p> <p>(課題)・残したい児童をのこせない。忙しい。 ・低学年から学力差がはげしい。← 計算の速さ</p>			
<p>2. 子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状 (中学校)・2回の定期テストで差がでてきた。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">現 状</div> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の理解に差がある。(授業の中では、話す時と書く時を分けてきたが、今は同時) ・残すことはできない。(個別指導できないことに一番困っている) → 夏休み補習(5日間) ・耳に入ってきた言葉を正確に書く力がない。(今年感じる) ・ノートをうまく書けない。、プリントを貼ってこない。 ・計算力はある。 </div> <p>(小学校)・低学年からのノート指導は大切である。(ノートの作り方)</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">小学校の うちに つきたい</div> <ul style="list-style-type: none"> ・計算力 ・家庭学習の習慣(自ら宿題をみつける) </div> <p>3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など) ・視覚に慣れすぎて、イメージがわきにくい児童が増えた。 ・小→中で保護者が宿題の少なさを感じている。<u>家庭学習の習慣がなく、できない。</u> 塾での学習で親は安心 ・子どもたちの立場からしたら、クラブも大切なのである。</p> <p>(中学校)・入試のため、2年生から絶対評価にかわる。 ・評価説明会:制度がかわる。</p> <p>4. その他(感想など)</p>			

第 1 分科会		国語	
司会・進行	梅阪(古中)	記録	西田(津雲)
<p>1. 授業で工夫しているところや課題となるところ <工夫しているところ> ・発問、目当てをしっかりと考える。難しい場合は身近な物を使って提示する。 ・良いモデルを示す。(書画カメラや児童のノートと同じマス目の黒板を使う。) ・多様な意見が出る場合、全員発表させる。(低学年から続けていきたい。) ・全員が前を向く授業を心がける。(・視覚教材 ・授業のはじめ、テスト前の漢字ビンゴ)</p> <p><課題> ・知識を持つことはできるが、使うことができない。 ・学校全体で発表するときの規律・音読の取り組み ・良く発表する子ども中心になる。(発言の偏り、苦手な子への支援)</p>			
<p>2. 子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状 「話す・聞く」 <つきたい力> ・低 … 自分のことを話す ・中 … 自分の話と相手の話をくらべながら話す ・高、中学校 … グループ活動、この学習活動 自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを理解する</p> <p><現状> ・声が小さい。 ・自分の考えを言う自信がない。 ・消極的。</p> <p>「書く」 <つきたい力> ・低 … 量的に書く(日記、一行日記) ・中 … 構成メモとともに文章を書く ・高 … 相手を意識して文章を書く ・中学校 … 自分の意見を根拠をもって書く) → 短歌、川柳の活用 ↳ 表現の方法を広げる ↳ 入試に向けた小論文</p> <p><現状> ・学年があがるにつれて、力の幅がある。</p>			
<p>3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など) ・小学校と中学校の評価の違いが大きい。 ・テストの作り方</p> <p>4. その他(感想など) 小学校と中学校の情報交換することで、中学校の子どもの様子をみんなまで把握できる。 中学1年生で行っている取り組みと小学校6年生で行った取り組みが繋がった。</p>			

第 4 分科会		理科	
司会・進行	濱田(古中)	記録	寺本(津雲)
<p>1. 授業で工夫しているところや課題となるところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中1の教科書は、中身が濃く学習内容が多い。実験観察に興味があるけど時間がない。計算に力を入れたい。 ・25、6才はゆとり世代で教科書がうすっぺらかった。 ・生活科では、植物を育てているが植物の名称をおさえていない。生活科では子どもの聞く力や教師の声かけ(視点)でかわってくる。 ・中学では、実験をひとりの先生で指導し、1時間の授業で考察まで指導している。 ・時間数が少なく、教師実験で終わることもある。 ・化学実験は、安全に気を使う。 <p>2. 子どもの発達段階に応じた「つけない力」と現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の通知表で、思考、表現、技能、関心、意欲の客観的な評価は難しい。 ・問題を解くには、算数の力や国語の読み取る力が必要。日常生活に絡めて指導している。 ・親の関わりで理科の興味がかわる。(小学校の夏休みの自由研究、虫をつかまえられるなど) <p>3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校でヤゴやちょうちよを飼ったり、いろいろな植物を育てたりしている。そのような自然体験が、理科の基礎となる。 ・中学校で「小学校で学習した？」と聞くと、忘れているときがある。「ふたば」覚えていない。実験は印象に残る。 ・中学では、興味・学力で二極化し、グラフに表すと2こぶラクダになる。 <p>4. その他(感想など)</p>			

第 3 分科会		社会	
司会・進行	世古(古小)	記録	阿部(古中)
<p>1. 授業で工夫しているところや課題となるところ</p> <p><工夫しているところ・小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・色ぬりなど作業を取り入れる。総合の時間とタイアップさせる。 ・方向を向くゲームや地図記号のカルタなど動きを入れる。 ・調べ学習は、自分の考えや思い・インタビューする記事を入れる。 <p><工夫しているところ・中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集のページを必ず板書する。板書は黒板1枚におさめる。 ・板書は書きすぎず、メモをとるよう促す。 <p><課題・小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞のまとめ方が記事や資料の丸写しになってしまう。やらなければいけないことが分からない。(小3) <p><課題・中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で既習すべきことができていない。(都道府県や国名など) <p>2. 子どもの発達段階に応じた「つけない力」と現状</p> <p><小学校></p> <p>「主体的に関わり、自ら考え、判断し表現できる子」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習中心 ・家庭によって情報環境の格差あり→出来るだけ学校で行うようにしている。(家庭の方針でテレビを置いていない家もある。) <p><中学校></p> <p>「言語活動を通して思考力、判断力、表現力を育てる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストに文章で答える問題を必ず出題する。 →知識はあるが文章でうまく表現できない生徒も多い。 <p>3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など)</p> <p><小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者テストと独自のテストを使っている。 ・調べ学習が多く、バリエーションが乏しくなってしまう。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴並行(π型)の学習に不慣れ。高校入試の評価が相対評価から絶対評価へ。 ⇒小学校での学習内容を中学校で把握し、子どもたちがスムーズに学習を発展できるようにする。そのためには、小中の密な連携が必要。 <p>4. その他(感想など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校と別々にとらえるのではなく、9年間という長いスパンで子どもたちを見据えることが大切であることを改めて感じた。 			

第 6 分科会 体育			
司会・進行	大谷(古小)	記録	宮本(古中)
1. 授業で工夫しているところや課題となるところ <課題点> ・自主性がない所が気になる。その解決のためにリーダーを育てる必要がある。 ・授業においては、すぐケガをする。運動能力が低い所が気になる。外遊びが少ないので、授業の中でたくさんの運動をさせる必要がある。 ・個々の能力では、後ろ向きに走れない・立ちくらみをする・スキップやクロスステップができないなど、数多くあげられる。 ・過保護な所があるので、全部先生が手助けをするのではなく、自分の力で考えさせ、やらす必要がある。			
2. 子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状 水泳について話し合いました。 <小学校> ・臨海学習があるので、平泳ぎを中心に命を守る水泳として200m泳ぐ練習をしている。 ・平泳ぎに力を入れすぎで、クロールの指導が少ないので、増やす必要がある。 <中学校> ・背泳・バタフライを中心にするので、小学校での泳ぐ力がとても役立っている。 ・水泳以外でも、小学生で基礎、中学生で発展と段階をふめる種目を増やしていきたい。			
3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など) <評価について> ・授業の始めに評価基準を確認して、生徒に話し、授業を進める。 ・ビデオをとって、テスト前とテスト中の違いを比べてみるのもいい方法だと思う。 <授業について> ・集団行動を中心に体づくりもしっかりやり、運動嫌いな生徒をつくらないようにする。 ・柔軟性がないので、小学校・中学校で共通なトレーニングを取り入れていく取り組みをしていきたい。			
4. その他(感想など)			

第 5 分科会 英語			
司会・進行	藤岡(津雲)	記録	小西(古小)
1. 授業で工夫しているところや課題となるところ (小学校)・朝の会などで日付や天気などを毎日英語で言う。 ・習っている子だけが中心にならないように工夫をする。 ・ローマ字に慣れる。(例:連絡帳をローマ字で) ・教材づくり (中学校)・文法に切り替わることで自信をなくしてしまう子が多い。 ・読めないと書けない → 読むことにも重点をおく。 ・日常的にクラスルームEnglishを使う。 (例:職朝などで教師も少しずつ使って子どもにかえていく。)			
2. 子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状 <目標> ・恥ずかしがらずに大きな声で話す。→ 自信がついている子は増えている。 ・ローマ字に慣れる。(最低限名前は書けるように) ・日付や天気を発音できるようにする。 ・共通の教材を使って子どもの力をつけていく。 → 特例校になった場合は、津雲小と古小でそろえる必要がある。			
3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など) (中学校)・声を出す。→ 出していると力がついていく。 ・AET週に1回、1・2年分割。 文法の導入や会話文のLessonに入ってもらふことが多い。 (小学校)・文法ではなく、会話をして楽しむことが目的。 ・英語だけでなく、他国の言葉も入っていく。 ・しゃべれているかだけでなく、振り返りシートをみて評価(記述)をしていく。			
4. その他(感想など)			

第 8 分科会		事務連携	
司会・進行	大野(津雲)	記録	大野(津雲)
<p>1. 幼小中一貫教育推進に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの幼小中一貫教育推進への関わり、業務を継続、改善を進めていく。 ・推進会議の記録「ジョイントプラス」もしていて、前年度、前回の内容も把握していることから、推進委員の方とも連携して、推進会議のレジュメづくりには関わることができるのではないか。 <p>有岡校長先生より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古中ブロックの事務連携の取組は、会議の効率化やブロックとしての取組の積み上げに繋がっていると思う。 ・古中ブロックとして、幼小中連携、一貫教育の取組のHP(ホームページ)を開設してはどうか。各校のHP同士のリンクをすることもできる。 <p>2. 事務連携について</p> <p>1学期の業務を標準職務表に当てはめ整理したものを元に話し合った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな項目と(労力を要したであろう)個別の業務が混在しているので、今一度、整理できると思う。 ・生徒名簿を管理しているのであれば、調査統計などはできることがある。教頭先生と連携してできるようになると良いと思う。 ・日常の業務の中で、マニュアルや手引きにない細かな課題解決でも他校の事務職員に聞くことも必要になる。事務職員同士の横のつながり(連携)が重要。 ・非常勤事務職員をしている業務も含めて、事務全般を把握できるようにしていく。 ・事務職員だけで、仕事は完結しない。非常勤事務職員を含めて、教頭先生、首席、担当教諭等とも細かな連絡をして段取りをつけて進めることが重要。その際、基幹会議(企画会議や予算委員会など)に参加して進めることができると有効だと思う。 ・府費三手当認定業務や書類作成などを、3校事務職員が分け合いすることは、現在やっていないし、効率化に繋がるかは疑問。監査前の事前点検等は有効と考える。 <p>有岡校長先生より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいシステム(今年度の財務会計や教科書など)が入ってきたときに、具体的な操作方法等を3校事務連携でミニ研修をして情報交換してはどうか。 <p>3. 情報交換(児童・生徒との関わり、校務分掌での役割など)</p> <p>4. その他(感想など)</p>			

第 7 分科会		図工・美術・音楽・技術・家庭科	
司会・進行	中野(古中)	記録	木村(津雲)
<p>1. 授業で工夫しているところや課題となるところ</p> <p><工夫しているところ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使って作品の発表をさせる。 ・学期の授業内容を事前に知らせる。 ・作品発表の原こうを作らせる。 ・響きを変えるために席を変える。 ・友達の歌、曲を評価する。(ワークシート) ・音楽の教科書の挿絵から読み取らせる。 ・高学年は合奏曲を自分たちで選ばせる。 ・グループ発表、話し合いで楽器を決めさせる。 ・ペア、グループ学習 ・「いまどんな気持ち」を使った日直スピーチ ・家庭科…役割分担を話し合わせる。 ・低学年のうちから、授業を入れかえて他のクラスも見る。(内容は同じ。担任が代わるだけ) ・途中の作品を見せ合う。(友達のいいところを自分の作品に取り入れる) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時数が少ない。発表が苦手な生徒への支援。 ・時数が足りず、発表までできない。 ・一曲終わるまで、立ってられない。 ・実技の中での、言語力育成。 <p>2. 子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場を設定し、できているが、まとめて発表できる子が少ない。 ・他のグループと比較したり、自分たちの意見を見直すことができるように。 ・工夫、創造する力をつけたい。 ・5～10分でも話を聞くことが難しい。 ・観察力がない。思い込みで絵を描く。対象をよく観察すること。生活の中にあるデザインに気づく。 ・友達への評価…観点を3つ決める。 ・歌詞の意味を考えながら歌わせる。 ・聞き流すのではなく、受け止める。 ・すぐに大人の頼るのではなく、子ども同士でつながれるように。 ・1年生からの積み重ね。(レッテルを貼る。どうせ〇〇はできない。) <p style="text-align: right;">↳ お互いに切磋琢磨するのを避けている。</p> <p>3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品が仕上がらなければ、評価は下げる。 ・生活経験の不足(家庭科包丁の使い方、風呂の洗い方) ・落し物に気付かない。物に執着がない。 <p>4. その他(感想など)</p>			

第 10 分科会		養護教諭・栄養教諭	
司会・進行	山本(古小)	記録	西村(古中)
<p>1. 保健・衛生指導(健康教育、性教育など)について</p> <p>< 歯科指導 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中で染め出し ・「歯の学校」という吹田市の体験型施設の利用 <p>< 幼稚園 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・うがい・水分補給についての指導 <p>< 小学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体測定の前に15分位のミニ指導(風邪が流行っていたら風邪についての指導など) <p>2. 食育について</p> <p>< 中学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食一注文が多い時は30%、少ない時で17%。 ・肉類の時は注文が多いが、魚の時は減る。 <p>< 幼稚園 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本はお弁当。月に1回、園でできたものを食べる日を作って、興味をひくようにしている。 ・個人のさいばちで好きな野菜を作っている。 <p>< 小学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食担当教員がカリキュラムを作成している。栄養教諭に講師依頼をしている。 <p>3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室の利用について ・授業中の来室に対する対応について ・児童・生徒への声かけの方法について ・不登校・不登校傾向の生徒に対する対応について ・保護者への連絡・本人への働きかけについて ・アレルギーを持っている児童生徒について 個別の支援体制が必要な場合が多い。特に調理実習や宿泊時には除去等について再度よく確認し対応を考える。 ・エピペンの保有状況について エピペンの必要な子どもが小学校に在籍しているので、今後中学校での研修や支援体制の整備がより必要になってくる。 <p>4. その他(感想など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校種を越えて情報交換ができて良かったです。 			

第 9 分科会		支援	
司会・進行	杉山(津雲)	記録	後藤(古小)
<p>1. 授業で工夫しているところや課題となるところ</p> <p>(幼稚園) 年長 通級5人程度 (津雲小) 20人在籍(6年生2人 → 来年中学進学) (古小) 16人在籍(6年生3人) (古中) 中3、5人 中1、1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物、課題で平常点をとっている。 ・高校への進学先について ・勉強面重視の保護者が多い(補講希望も) <p>☆幼稚園～小学校の連携が不十分。 幼稚園の支援計画を保護者と相談して作成し、小学校に上げるシステムを作るべき!</p> <p>2. 子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状</p> <p>(中学校)・就労に向けた高等支援学校のコンセプトを元に指導。 社会に向けてあいさつ、時間、困ったことを困ったと言えること。 ・中学へ上がった時に保護者は何を求めるのか、 3年間しかないから入学時には卒業時のことを見越して教育する。 (幼稚園)・あいさつは重視。時計は読めないが、「長い針が10にきたら…」などで指導。 身だしなみ(ハンカチ・ティッシュ)もきちんとさせている。</p> <p>☆幼稚園児の保護者は小学校の支援学級を、小学生の保護者は 中学校の支援学級についてもっと知るべき。(学校も必要な情報を提供すべき)</p> <p>3. 情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価、通知票など)</p> <p>4. その他(感想など)</p>			

国語科学習指導案

授業者 井上良太
共同研究者 木村ひとみ 濱口茂子 浅井真澄

1. 日時 平成26年(2014年)11月5日(水)
第5時限(13:40~14:25)
2. 学年・組 第5学年1組 (37名)
3. 場所 図工室
4. 単元名 物語のおもしろさを考えて読み味わおう
5. 教材名 「注文の多い料理店」(宮沢賢治 作/小林敏也 絵) 東京書籍 下巻
6. 単元目標
- ・表現の工夫や物語の展開など、表現のおもしろさを味わいながら読み、主題について考える
 - ・表現の方法や物語の構成などの「物語を読むすべ」がわかる
 - ・自分の考えを理由や根拠を明らかにして話し、友達との話し合いを通して読みを深める

7. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	・表現の工夫や場面の展開、人物の心情について、友達との話し合いを通して、自分の考えや読みを深めようとしている。
話す・聞く	・読み取ったことを理由や根拠を明らかにして話したり、自分の考えと比べながら友達の考えを聞いたりしている。
書く	・教材文を手がかりに想像をふくらませたり、言葉に根拠を見つけたりしながら、自分の考えを文章に書いている。
読む	・物語の展開にそって人物の心情やその変化、表現上の工夫を読み取り、作者の意図する主題について考えている。
言語事項	・文章表現の工夫を理解したり、言葉の使い方を自分の表現に生かしたりしている。

8. 努力目標テーマから子どもたちをみて思うこと(児童観とともに)

- 子どもたちの今
- ①聞き手の問題 本学級の子どもたちは、話し手の方をきちんと見て聞こうとするし、かんたんなあいづちをうったり返事をしたりすることはずいぶんとできてきました。しかし、なぜそうするのかという点においては、まだまだ意識が高いとは言えません。聞いているようで、実は「見て聞いている格好」をしているだけのときが多くあります。話し手のメッセージを受け止め切れていない、聞き手の問題点です。
- ②話し手の問題 一方話し手側も、みんなの前ではっきりした声で話そうと努力していますが、みんなの方を向かなくては、という姿勢面に気がいきすぎ、伝えようとしている内容がどう伝わったかという肝心な部分の自己確認があまりできていません。自分が誰かに向かって話をするのは、今話している相手にそのことをわかってもらいたいからのはずです。学級では、「今から3つお話をします」というように文の数を示したり、話を短く切ったり、「ここまではわかりますか」などと聞き手の反応を確かめたりといった話し手が自分の伝えたいことがどう伝わっているのかを確認するための手立てを指導してはいますが、こちらもまだまだ発展途上です。
- ③話し合い問題 “学びの道連れ”であるはずの仲間の方へ、授業中の子どもたちの言葉が向かっていかない。今、その場面で一人ひとりが思うこと、感じることを出し合うことこそ価値があるはずなのに、どうしても「答えが、考えが合っているかどうか」に意識が行ってしまう。自身の考えを「差し出し合う」という、本当の意味での話し合いを、まだまだこわがっているように思えます。
- ④挙手発言の問題 授業中の挙手発言についても同様に言えます。挙手してまで発言しようとする子は、授業の中身が深まるにつれ少なくなり、発言者も限定されてきます。教師は、こうした子どもたちの動向を、「自信がない」「経験不足」などと決めてしまいがちですが、そうした個人の気持ちの問題だけではないと思います。
- 話し合いの手立て そこで、国語の時間だけでなく日常的に話し方・聞き方の基本的な習慣を身につける手だてとして“一往復半のやりとり”を行ってきました。聞き手の反応を「そう思う」「違う考えだ」「わからない」の3つに大別し、話し手の言葉に対して、聞き手は3つのどれかを言葉やしぐさ、態度を用いて受け取ろうとする意志を示す活動です。そしてそれにもう一度話し手が言葉で返します。話したことにみんなから反応があれば、また話してみようと思ひ、逆に

せっかく勇気を出して挙手して話してみたのにだれもなにも言ってくれなかったら、もう言わないでおこうと思うのではないのでしょうか。聞き手からいい反応があれば、だんだん話し手の数は増えていくもの。話し手は、優秀な聞き手が作るものだと考えます。

話題を把握する
ための手立て

本学級には支援学級に在籍している子どもたちもおり、話し合いが活発になって言葉だけが行き交う授業では、どうしても遅れがちになる子どもも出てきます。板書の工夫や、出てきた意見を別の子どもに言い換えさせたりするなどして、今話題になっていることを落とさないように気をつけて進めてきましたが、そうしたことも子どもたちが理解してできる場面が増えてきています。

声のやりとり
＝言葉とともに
心も送り合う

話し手と聞き手。互いの間に存在するのは、言葉と、心です。言葉だけをやりとりしているのではなく、そこに込められた心を送ったり受け取ったりする営みです。話し手は自分の考えが伝わっているかを確かめながらすすめること。聞き手は、聞いているという事実、理解できたという意味を話し手に言葉や反応で伝えること。一人ひとりが思い、感じるさまざまな声が“学びの道連れ”である仲間によって支えられ、尊重される学級集団であれば、その声を出し合うことそのものが価値づけられ、そのやりとりによって得られた内容だけでなく、営みそれさえにも意味が生まれてきます。そんな学級でありたいと願い、日々の学習に取り組んでいます。

9. 教材から学ぶもの(教材観として)

あらすじ

本教材は、狩りをしようとしていた二人の若い「しんし」が山奥で迷い、偶然見つけた一軒のレストランに入っていく場面から始まります。そこは不思議な「注文」の書かれた戸ばかりで、二人はなかなか料理にありつけません。それどころか、この戸に書かれた注文が、「しんし」にはごちそうの期待なのに、山猫には「しんし」をごちそうとして食べる注文というところがユーモラスで、最後によりやく自分たちが「料理」にされそうになっていると気づきます。なんとか助かった二人ですが、紙くずのようになった顔は元には戻らなかった、というお話です。

現実と非現実を跨ぐ
＝“風”の役割

現実と非現実の世界が交差するこの物語では、“風”が重要な役割を担っていると言えます。すなわち、「風がどうとふいてきて、草はザワザワ、木の葉はカサカサ、木はゴトンゴトンと鳴る4つの現象を合わせた一文が、異世界との出入口を表現しています。「ザワザワ鳴るすすきの中」で呟いた直後に表れる山猫軒(P8)や、「風がどうと部屋の中に入って」きて彼らの目の前でブラシがかすんだ場面(5つ目の注文)のように、あちこちに非現実が散りばめられています。

山猫は存在する？

こうした文章表現が読み手の期待を高めることは事実ですが、それ以上に、読後に感じる“得体のしれないこわさ”を惹きたてています。

その“こわさ”の正体はなにか、と注意深く読んでいくと、賢治は「山猫の親分」の描写を意識的に避けているようにみえることが関係しているのではないかと思えてきます。“山猫の手下”については会話や、かれらの「二つの青い目玉」が鍵穴からこちらを覗いていると話者に語らせているけれど、「山猫の親分」の姿を地の文から見出すことはできません。しかも、それ自身が棲むのは「その戸の向こうの真っ暗やみ」です。さらに、山猫は根本的には退治されていないかもしれません。蘇生した犬が追い散らしたことになるけれど、それらはすべて「戸の向こうの真っ暗やみの中」での出来事で、こちら側からは見えません。「ニャアオ、クワア、ゴロゴロ」という争う声が聞こえてきただけです。しかも、猟犬(白熊のような犬)が二匹もいるのに獲物を持ち帰らず、「フーとうなってもどって」きただけということは、結局、なにも解決しなかったのではないのでしょうか。正体や結果がわかっている場合よりわからない方がいっそう不気味でこわく感じます。

人物像を照らし
合わせてみて
しんし＝山猫？

人間は、自然に対して丁重にその恵みを感謝し、畏敬の念を忘れてはならない、というのがこの物語から読み取れる教訓の一つといえますが、どんなに敬っても、自然は人間の願望など歯牙にもかけないものです。過酷な天災を毎年のようにもたらします。そういう点から、「真っ暗やみ」の中の「山猫の親分」の存在＝自然に集約されるこの物語の意味は、もっと深いものを秘めているように思われます。

一方で二人の「しんし」は、遊びで楽しむために生き物の命をもてあそんで何とも思わない人物です。犬が死んでも損害がなく、それでいて権威には弱く(「貴族と近づきになるかも」、成金趣味(「びかびかする鉄ぼう」)です。そんな人物像に、子どもたちはいい感情やイメージを抱くことなく読み進めるでしょう。

それに対し、彼らを逆に捕って喰おうとする“山猫”はどうか。自然の脅威と見ることができず、「正義」だとは言いきれません。無慈悲にもサラダにして喰ってしまおうとしているからです。しかしそれは「しんし」たち自身が無慈悲だからであり、「しんし」たちの生命への軽視が、そのまま鏡のように山猫の凶暴性として映し出されているとみることができず、真摯であるはずの自然の代表者たる山猫たちが、一種ふざけて見えるのも、山猫が「しんし」たちの心そのものを投影しているからと考えられます。

「みる－みられる」の関係

物語の舞台である「山」は、生きるために生命をやりとりする場です。そこには「食べる－食べられる」の関係が厳然と存在しますが、生命への尊厳など全く顧みない「しんし」たちは、自分たちの生命が脅かされるなど思いもしません。そんな自分勝手な論理に立っている二人にそれを突きつけるのが、山猫です。

話者は「しんし」の目を通して物語をすすめています。「しんし」が、“みて”いる「視点人物」です。しかし、“みられて”いる「対象人物」の存在はずっとわかりません。それが、12個目の注文書きで自分たちが食べられそうになっていると知った「しんし」は、次の戸に「かぎあな」を見つけ、そこからのぞいている「二つの青い目玉」の存在に気づき、初めて“みられていた”ことを知るのです。

「食べる」から「食べられる」の変化を、この「みる」から「みられる」への変化の中で読み解くことは、教材として重要だと考えます。

10. なにをどう学ばせたいと考えているのか（指導観の実際）

国語指導の魅力

物語教材を指導するとき、作品を何度も読み返し、このお話のおもしろさは何か、どう解釈すればよいか、味わい方は…と、自分自身で考えることはとても楽しいことです。そうした授業研究を通してこそ、なにをどう教えたいかというものが見いだせるのではないのでしょうか。

「読むすべ」

授業の中で、人物をおいかけ、文章を細かくみとり、その作品自身を分析していくことはもちろん大切です。と同時に、必ず教科として教えるべき内容もまた、大事にされなくてはなりません。自分の力で作品を読み解いていくために、作品の構造を理解したり、言葉を分類させたりできるようになる、読み取っていくためのスキルとしての「読むすべ」を子どもたちに身につけさせたいと考えています。

“かたち”をとらえる

この物語の場面構成は、設定・展開・山場・結末という典型的な基本四場面に分けることができます。作品のしくみを把握するために、「時・場・人物」に関わる言葉をおさえ、状況を整理し、場面分けを行います。小さな場面構成をとらえることで、作品の大きな流れをつかむことができるからです。

話者が語るもの ＝人物の気持ちと 様子の関連

次に、人物に関わる記述を整理しながら、話者の視点にも注目させていきます。この作品では「山場の場面」（P17L3から）で「しんし」の立場が、食べる側から食べられる側に大きく転換します。教材観で述べたように、「かぎあな」や「二つの青い目玉」を文中から抜き出させ、「みる－みられる」関係の変化の中から読み解かせたいと考えます。

話者の視点から人物の気持ちや様子を確実に把握できるようにすることも大切です。この物語の中心人物と考えられる「しんし」のなにが大きく変わったのか。本文の中に様子の変化はみられるけれど、彼らの心情の変化をはっきりとした形で読み取ることはできません。むしろ、結末の一文（「さっきいっぺん紙くずのようになった二人の顔だけ」）からも分かるように、心持ちなどが変化したわけではないといえます。その理由のひとつとして、話者が様子については多く語っているけれど、気持ちについての記述はほとんどないことに気づかせます。そのことが、既習の作品群との相違点であり、新たな“典型”を知ることとなります。

登場する人物の心理描写をできるだけ少なくし、様子を淡々と語り続けるという表現の工夫は、もうひとつ、二人の「しんし」の考えの浅さも際立たせています。こうした点を、「物語を読むためのすべ」として、この教材を通して指導し、子どもたちに身につけさせたいと考えています。

語られないことは…

さらに、みんなで考え、話し合うとき、「(文章に)語られていないことはわからない」という大原則を、この時期の子どもたちにぜひとも理解させたいものです。書いてあることはだれが何と言おうと正しい。しかし、語られていないこと、人物や話者が語らないことは、それが、語らずにいることなのか、それとも語る意味のないことなのかも含めて、“語らないだけの理由”があることを知るべきです。

単元後半に、「なぜ山猫は戸を作ったのだろうか」という発問をします。山猫が戸を作った理由はいっさい語られていません。しかし、人物像を深めたり読み込んだりしていく中で、子どもたち一人ひとりの考えというものは作り出されていくものです。ただ、文中で語られていないので、“正解”ではなく、妥当だと思える“解釈”ということになります。そのことも含んだ指導をしていきたいと考えます。

作品の主題に迫る

「しんし」の人物像を丁寧にみとっていくことや、戸を作った山猫の言動を想像していただくことで、賢治自身が「糧に乏しい村のこどもらが都会文明と放恣な階級とに対する止むに止まれない反感」だと書くこの作品の主題に、子どもたちは迫ることができるようになって考えます。二重の注文というしかけのおもしろさや人物批判をするようなおもしろさに惹かれるだけに終わらず、登場人物の言動から作品世界に織り込まれた作者の思想（感じ方やもの見方など）に近づき、作品の持つ主題の追求に挑戦してほしいと思います。

11. 指導計画 (全 12 時間)

次	時	学習活動／指導上の留意点	評価											
一 次	1 ・ 2	<p>「注文の多い料理店」はどんなお話だろうか</p> <p>1. 題名や扉絵から物語の内容を予想する ・「注文」という言葉について知る</p> <p>2. 全文範読を聞き、初発の感想を書く ・難解語句には、範読の際に薄い線を引かせる ・場面展開や言葉のおもしろさ、思ったことや分かったこと、疑問に思ったことなどに注目して、項目を立てて書く ※難解語句の意味調べは説明して自主学习とさせる</p>	ストーリー性、表現のおもしろさに気づく (関)											
	3 ・ 4 ・ 5	<p>物語の構成をとらえよう</p> <table border="1"> <tr> <td>設定</td> <td>最初-</td> <td>時・場・人物に注目し、状況の説明をおさえる</td> </tr> <tr> <td>展開</td> <td>P8L12-</td> <td>出来事がいくつあるかを、二人の「しんし」を主語でまとめる</td> </tr> <tr> <td>山場</td> <td>P17L3-</td> <td>場面が大きく変わっているところを見つける</td> </tr> <tr> <td>結末</td> <td>P21L10-</td> <td>山場で変わったことのその後を確認する</td> </tr> </table> <p>2. ファンタジー性に着目し、現実と非現実の世界の出入口となる一文を見つける ・この一文が分解されて、作品全体に散りばめられていることに気づく (特に三度あらわれる“風”が大きな意味を持っていることを知る)</p> <p>3. 話者の視点について考える ①会話文と地の文を整理する ②二人の「しんし」によりそっている話者の視点をおさえる ・視点人物の用語を知り、気持ちと様子について整理する</p> <p>4. 二人の「しんし」について考える ①「しんし」についての記述を抜き出し、人物像を考える ・外見・装飾や持ち物、嗜好 ・考え方・職業・身分観、生命に対する畏敬の念のなさ、自主性のなさ ②何度も読むことの大切さやおもしろさについて考える ・初読…人物も読み手も知らない＝「同化」して物語を味わう ・再読…読み手は知っているが人物は知らない＝「異化」を味わえる →より一層「しんし」の人物像を際立たせていくことに気づく</p>	設定	最初-	時・場・人物に注目し、状況の説明をおさえる	展開	P8L12-	出来事がいくつあるかを、二人の「しんし」を主語でまとめる	山場	P17L3-	場面が大きく変わっているところを見つける	結末	P21L10-	山場で変わったことのその後を確認する
設定	最初-	時・場・人物に注目し、状況の説明をおさえる												
展開	P8L12-	出来事がいくつあるかを、二人の「しんし」を主語でまとめる												
山場	P17L3-	場面が大きく変わっているところを見つける												
結末	P21L10-	山場で変わったことのその後を確認する												
二 次	6 ・ 7 ・ ⑧	<p>戸に書かれた13の「注文」のひみつを探ろう</p> <p>1. 戸の特徴をとらえ、共通点や相違点を考える ①全部で戸が7枚、注文13個で、表裏に注文が書かれている ・戸①②…建物内に誘い込む ・戸③④…着ている服や金物を取り払う ・戸⑤⑥…味付けをする ・戸⑦…味付け (→暴露) ②戸の表と裏で注文の性格が違うことに気づく ③山猫の注文の二重の意味を読み取り、作品のおもしろさを味わう</p> <p>2. 戸に書かれた注文と二人の「しんし」の言動を読み取る ①「みる→みられる」の関係の変化について知る ・山猫に関する記述を抜き出す (「かぎあな」「二つの青い目玉」) ・「食べる→食べられる」と「みる→みられる」の共通点に気づく ②「しんし」はどの注文で山猫の意図に気づいたかを話し合う ・注文に対する言動から、「しんし」の人物像をおさえる →都合のいい解釈を繰り返す、相手より知識を誇りたい ③「へんだな」と思うことと「食べられる！」と確信することの相違を明らかにする</p> <p>3. 山猫の言動を読み取り、「しんし」と山猫の人物関係を考える ・生命に対する両者の言動には共通するものがあることに気づく</p> <p>※表と裏の注文に対する「しんし」の対応を読み取る (発展) ・5つ目の注文を境に、納得と疑問の関係性が逆転していることに気づく</p>	13の注文の特徴や表現のおもしろさ、質の違いを読み取ることができる (読) 注文が立場によって変わっていることに気づく (読) 友だちの考えを自分の考えと比べながら話すことができる (話聞)											

三 次	9 ・ 1 0	<p>なぜ山猫は戸を作ったのだろうか</p> <p>1. 山猫が作った戸の意味を考える</p> <p>①山猫の人物像をとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸に書かれた文からわかること、地の文に表された山猫の人物像を考える <p>②戸に書かれた注文を振り返り、「山猫はほんとうに二人を食べるつもりだったのか」を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食べる派」「他の目的派（こらしめるなど）」 <p>「しんし」は変わったのだろうか</p> <p>1. 文章の中の言葉から考える</p> <p>①視点人物の気持ちはあまり多く語られていないことを思い出す</p> <p>②「しんし」が「ふるえ」ている記述の変化が示すこと</p> <p>③「しんし」が泣く記述の変化が示すこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山猫に食べられるのがこわい ・自分たちの行動を後悔している <p>2. 設定と結末を比較する</p> <p>①生命に対する考え方、金銭に関する言動を対比する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十円も」と「十円だけ」を対比し、「しんし」の変化を考える ・猟師に対する言葉づかいに着目する <p>3. 『しんし』の紙くずのようになった顔が象徴しているもの考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「紙くず」「紙」「くしゃくしゃ」のイメージ化を図り、話し合う 	<p>根拠を明らかにして自分の考えを話すことができる。（話聞）</p> <p>本文に書かれていることと行間から読み取れることを区別して発表することができる（話聞）</p> <p>これまで学習してきた物語をふまえ、「しんし」の変化について考えることができる（読）</p>
	四 次	1 1 ・ 1 2	<p>ほんとうに山猫はいたのだろうか</p> <p>1. 山猫の親分の存在意義について考える</p> <p>①文中の記述から、山猫の親分像を明確にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地の文では語られていない、子分の会話の中になら登場しない <p>②「真っ暗やみ」に棲んでいることの意味から山猫が象徴するもの考える</p> <p>「作品の心」を読み取る</p> <p>①作品を通して作者が伝えたかったことを考え、書く</p> <p>②交流する</p>

12. 本時の目標

- ・問いに対する自分の考えと先に出てきた友達の意見を、そのつながり方に気をつけて、発言したり反応したりできる（話・聞）
- ・二人の「しんし」の変化や山猫と「しんし」の関係について、本文に書かれていることと読み取らる中で解釈したことを区別して考えることができる（読）

13. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	☆評価
<p>1. 前時をふりかえり、本時の活動の見通しを持つ</p> <p>①戸には二重の意味があった</p> <p>②「しんし」の立場は「みる」から「みられる」に変化した</p> <p>2. 音読する（P17L3～P20L10）</p> <p>3. 二人の「しんし」の変化について考える</p>	<p>二重の意味の例と、みられていることがわかる箇所を挙げさせるとき、本文にそった話し方を意識させる</p> <p>☆前時のノートを見て振り返りができている（関；発言）</p>	
<p>「しんし」たちが「へんだな」と思ったのは、いつだろう</p>		
①二人が「へんだな」と思った注文を抜き出し、発表する	自分が思うところに線を引かせ、そう考えたわ	

<p>戸① ことに太ったおかたやわかいおかた 戸② これはぜんたいどういうんだ。 戸③ また変なことが書いてありました。 戸④ くつをおとりください。 戸⑤ 耳にもよくぬりましたか。 戸⑥ 頭にびんの中のこう水をよくふりかけてください。</p>	<p>けを書かせる</p> <p>たくさんの子どもに発言させたいので、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番言いそうなところから ・できるだけ短い文で ・幾人かに言い換えさせる <p>☆友だちの意見に連なって発言したり聞いたりしている（話・聞；発言）</p>	
<p>②二人のその都度のようにすから、人物像を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へんだと思っても、都合のいい解釈を繰り返している ・相手より自分の方がよく知っていることを強調している 		
<p>では、「食べられてしまう！」と思ったのは、いつだろう</p>		
<p>③二人はいつ「食べられてしまう！」と思ったかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各戸でへんだと思ったときを検討し、12個目の注文後にしか「食べる」と書かれていないことに気づく ・「食べるー食べられる」の逆転を、両者で認めている箇所を抜き出す（からだじゅうに塩をもみこむ） ・書いてあることと、想像して考えることの違いを、「へんだな」と「食べられてしまう！」との違いからおさえる 	<p>自分が思うところに○をつけさせ、全員に挙手をさせる（全員参加）。戸ずつで検討をしていき、12個目の注文まで文中に「食べる」とは書かれていないことに気づかせる</p> <p>☆本文に書かれたことと解釈したことを区別している（読・書；発言、ノート）</p>	
<p>4. 山猫の言動を読み取り、山猫と「しんし」の人物関係を考える</p>		
<p>なぜ山猫たちはさっさと出てきて、「しんし」たちを食べてしまわないのだろう</p>		
<p>①山猫の会話や様子から、「しんし」に何をしようとしているか、どう思っているかを想像して話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山猫は自然の代弁者で、二人をこらしめようとしている ・命を粗末にする「しんし」を許さない <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でも食べられるのはかわいそう ・山猫もふざけている感じがする <p>②山猫と「しんし」の言動に共通点がないか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しんし」にも同じ行動があることをおさえる（二、三発おみまいもうしたら） 	<p>山猫の言動について書かれているところに線を引かせる</p> <p>「気づかれたのに、なぜ最後の戸から出て行って食べてしまわないか」と問い、山猫の意図に「しんし」と同じような性質を嗅ぎ取らせる</p> <p>☆生命を軽視し、もてあそぶ点において両者に違いがないことをおさえられている（読；発言・ノート）</p>	
<p>5. 今日の学びを一文にまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事なところを落とさないで、できるだけまとめて書く 		<p>自分の言葉で短くノートにまとめさせる</p>

第一学年 国語科学習指導案

吹田市立古江台中学校

授業者 梅阪 祐司

- 1.日時 平成26年11月18日(火)
6時間目(14:25~15:15)
- 2.場所 D棟4階 1年2組教室
- 3.学年・組・人数 1年2組 33名
- 4.単元・教材名 「国語で生きる ～数学編～」 (全1時間)
- 5.授業に関して

・教材観

本単元は、「国語で生きる」と銘打っているように、国語における「読む」力を通して、生徒の「生きる力」の育成を図るものである。国語教育では、読解リテラシーやPISA型読解力と呼ばれるように、「読む」力と、読み取ったものを状況に応じて「書く」力の育成が求められている。その読み取る対象は、従来の文学的文章や説明的文章だけではない。生徒達は日常で様々な情報を読み取らなくては行けない。地図やグラフや表、データやイラスト等が一例として挙げられる。実際に、平成26年度の全国学力・学習調査の国語の設問では、絵やウェブページの画面の情報から解かせるものや、フリップに書かれているものを読解するものが見られた。

このように、文章以外のものから情報を読み取る練習として、本授業では生徒に馴染みの深い数学の式を用いる。式という数字と符号で表されたものを、言葉に置き換えるというのが本時の活動である。

・生徒観

この学年の生徒は、これまでに『わたしの中にも』、『私の好きな春の言葉』、『河童と蛙』、『暗闇の向こう側』、『ベンチ』、『花の形に秘められたふしぎ』、『蜘蛛の糸』、『竹取物語』、『笑顔という魔法』、『自分の頭で考える?』、故事成語、近代文学について学習してきた。『竹取物語』の授業では、登場人物のその後に向けて手紙を書く活動を行い、また故事成語の授業では生活の場面に故事成語を取り入れた文章を書く活動を行ってきた。

生活面においては、体育祭・学習発表会という大きな行事を通して、中学生として着実に成長している。特に、これらの行事を通して、協力すること、助け合うことを身につけてきた。授業においても、分からない友達がいれば親切に教えてあげている生徒の姿を目にすることができる。

・指導観

式から問題文を書かせる活動を通して、読み取り、書く力をつけさせたい。言葉は記号であることを意識させ、数字と符号という記号で書かれた情報を、言葉という記号で語り直す。最初は単純な四則計算を例に出し、その後生徒自らが選んだ式について問題文を書いていく。式から生活における場面が想像できるように、随時指導していきたい。

6.単元の目標

- ・ **C 読むこと(1)カ** 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。

7.単元の観点別評価規準

関心・意欲・態度	情報を読み取り、言葉に表そうとしている。
読むこと	数字と符号から情報を読み取り、場面を想像することができる。
書くこと	読み取った情報を適切な言葉で書くことができる。

8.本時について

・本時の目標

関心・意欲・態度	情報を言葉に置き換えようとしている。
読むこと	数字と符号から情報を読み取り、場面を想像することができる。
書くこと	読み取った情報を適切な言葉で書くことができる。

- ・本時の評価基準（次ページ「本時の展開」参照）

【b】数字と符号から情報を読み取り、場面を想像することができる。（読むこと）ワークシート
読み取った情報を適切な言葉で書くことができる。ワークシート

〈Bの判定基準〉

数字と符号から式の内容を理解し、適切な文章を書くことができている。

〈Aの具体的な姿の例〉

言葉が記号であることを理解し、自らの書いた文章が相手により伝わるための工夫を凝らした文章を書くことができる。

例、買い物でのお釣りを表す式において、消費税について触れている。
x（エックス）が何を表しているのかを明記している。 等

〈Cへの支援〉

式によって求められるものが何であるのか、気づかせるよう指導する。

- ・本時の展開

	学習内容と活動	教師の支援 等		
導 入 (15 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・『矛盾』の音読（フラッシュカード） ・本時の目標を確認する。 「情報を言葉に置き換えよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報」には様々なものがあることを確認する。 例ニュース (新聞、テレビ、インターネット等) 		
展 開 (30 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の式から問題文を考える。 →数学の式は数字と符号で表された情報である。 ・A～Dの4つから自分が取り組む式を決める。 <table style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> A 33-28 B 20-7-7 C 500×2+100×9+10×9 D 1000-(130x+160) </td> <td style="padding: 5px;">} 同じ除法だが、違う求め方ができる。</td> </tr> </table> ・書いた文章から式が再現できるか、友達に確認して貰う。 ・A～Dの情報を基に書いた文章を発表する。 	A 33-28 B 20-7-7 C 500×2+100×9+10×9 D 1000-(130x+160)	} 同じ除法だが、違う求め方ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・例 2+3 「リンゴが2つあります。さらにリンゴを3つ貰いました。……」 ・【a】情報を言葉に置き換えようとしている。 机間指導 ・式が再現できるように、言葉を補うよう指導する。 ・「言葉は完璧ではないので、補う必要がある。」 ・適切な言葉遣いで書けているか確認する。 ・【b】数字と符号から情報を読み取り、場面を想像することができる。（読むこと） 読み取った情報を適切な言葉で書くことができる。（書くこと） ワークシート
A 33-28 B 20-7-7 C 500×2+100×9+10×9 D 1000-(130x+160)	} 同じ除法だが、違う求め方ができる。			
ま と め (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動を振り返る。 数字、符号といった記号で示された式を、記号である言葉を用いて表現することの難しさに触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入したワークシートを回収。書かれている内容を後日プリントにまとめて配布し、個人から学級へのフィードバックを図る。 		

道徳指導案

吹田市立古江台中学校

指導者 藤田亜矢子

1. 日時 平成26年11月18日(火) 第6時限
2. 場所 D棟3階 第1学習室
3. 学年・組 第2学年4組 (35名)
4. 主題名 「マララ・ユスフザイさんの体験を通して」
内容項目【1-(2) 希望・勇気・強い意志】【4-(3) 正義・公正・公平】など
5. 生徒観 本学級は素直で元気な生徒が多い。男子生徒を中心に、授業中積極的に発言をする生徒が多く見られる。落ち着きがないこともしばしばだが、ふだんの道徳の授業においても、グループ活動などを通し、ユニークな意見を活発に発表する姿も多く見られる。本時においても、教材を通してさまざまなことを考え深めさせたい。
6. 教材観 ノーベル平和賞受賞者マララ・ユスフザイさんの手記「わたしはマララ：教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女」からの抜粋である。もともと著者の思いが強く表れていると感じられた“プロローグ”および“エピローグ”から資料を作成した。イスラム武装勢力の銃撃を受けた後も、教育の重要性について一心に訴える著者の生き方について迫りたい。また実際のスピーチの映像を見、生の声を聞くことで、彼女の意志をより強く感じさせたい。
7. 指導観 本時の使用教材は、さまざまな内容項目を含むと考えられる。主として「4. 主題名」に記した2つであると考えられるが、その他のものとも関連していると捉えることもできる。本時では、それらをあえて一つに定めず、生徒たち自身の自由な発想から多様な観点に気づかせたい。自分たちと同じ年代である著者の壮絶な体験と、それに屈しない勇気と希望に満ちた姿は、生徒たちに強い印象を与えるだろう。そこから生まれるさまざまな考えをできる限り掘り上げ、グループワークを通じてキーワードとして取り上げたい。またそれらの中から自分が大切だと最も強く感じたものについて考えを深めさせたい。
8. 本時の展開
 - (1) 本時の目標
 - ・教材を通して考えた「キーワード」について、グループ→クラスで共有する。
 - ・自分が最も大切だと思った1つについて考えを深める。
 - (2) 準備物
資料 (Power Point によるスライド、紙媒体による読み物資料、映像データ)
ワークシート パソコン プロジェクタ 書画カメラ CD プレーヤー

9. 指導過程

時間	生徒の活動	指導内容・発問	指導上の留意点
導入 (10分)	○マララ・ユスフザイさんについて知る	「あなたが今まで影響を受けた人物は？」 写真を提示し、これまでの経歴を説明する	生徒らと同じ年代であることを強調する
展開 (35分)	○資料の中で印象に残った箇所に線を引く ○大事だと感じたことをキーワードにまとめる ・ワークシート1. に記入する ○グループでキーワードを共有する ・役割分担を決める ・意見を出し合い、4つにしぼる ・ワークシート2. に記入する ○発表者が自分のグループが選んだキーワードについて説明する ○スピーチの映像を見る ○いちばん強く印象に残ったキーワードについて考えを深める ・ワークシート3. に記入する	資料を範読する 机間指導を行う グループ活動の手順を説明する 机間指導をおこなう 「なぜそれを選んだのか？」 国連スピーチの映像を再生する 机間指導を行う	自分で考えるのが難しい場合は本文より抜き出させる 全員が活動に参加できているか観察する 「権利」「平和」「教育」など、重複すると考えられるもの以外について質問する
まとめ (5分)	○数人の生徒が発表する	マララさんの生き方から学び取れることを振り返る	

10. 参考資料

- ・『わたしはマララ 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』
マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム 金原端人＋西田佳子訳 学研パブリッシング
- ・『武器より一冊の本をください』 ヴィヴィアナ・マツァ 横山千里訳 金の星社
- ・YouTube <<https://www.youtube.com>>

保 育 指 導 案

吹田市立古江台幼稚園
ぶどう組担任 堂野 綾子

日 時 平成26年6月16日(月) 12:40~13:30

場 所 吹田市立古江台幼稚園 リズム室

園児数 ぶどう組年長児 11名(男児 8名 女児 3名)
いちご組年長児 12名(男児 7名 女児 4名) 計 23名

○活動 「 葉っぱ家族をつくろう 」

○ねらい

- ・1本の木にはいろいろな大きさや色の葉っぱがあることに気づく。
- ・友達と一緒に相談したり、考えたりして葉っぱ家族をつくる。

○内容

- ・葉っぱを見て自分なりにイメージを広げる。
- ・自分なりにイメージしたことを自分の言葉で発表しようとする。
- ・友だちの意見を聴き、自分のイメージと共有しようとする。
- ・友達と相談して葉っぱに名前をつける
- ・友だちの作品と自分の作品を見比べながら、イメージを交流し合う。

○幼児の実態

- ・教師が提案した遊びや活動には楽しく参加する姿が見られるが、自発的な姿はあまり見られず、遊びが持続しない。
- ・仲のよい友達には関心をもてるが、全体的に友達への関心が薄い。
- ・竹馬や鉄棒に取り組み、自信をつけてきている子どもが多くなってきた。
- ・自然大発見探しでは自分なりに発見をして楽しみ、友達に伝える姿が見られる。

○題材について

- ・今年度、はぎのき公園で大発見探しを2回行った。子どもたちは自然に目を向け、探すことに楽しさを感じていた。又、音のなる木(石とこすり合わせている)や、棒に花を結んで飾りを作ったりと自然ならではの楽しさを感じている子どももいた。しかし、なかなか自然に目がいかず遊びの楽しさがわからない子どももいた。今回の研修では身近な自然には同じものはなく、色や形大きさが違うことに気づいてほしいと願っている。
- ・友達の話聞く、相談する、折り合いをつける、ということが難しい子どもも見られるので、今回は2人組を教師が設定し、話し合う機会を設けた。

○指導の展開

時間	幼児の活動	○援助 ●環境構成	準備物等
12:35	○リズム室へ移動する。	○排泄をすませておくよう声をかける。	葉っぱ 画用紙 両面テープ
12:40	○大発見について話し合う。 ○葉っぱ(家族)を見る。 ○葉っぱ(家族)について話を する。	○今までの大発見を思い出させ、どのようなものを見つけたか話し合う。 ●教師が事前に葉っぱを見つけておく。 ○似ているが少しずつ違うことや、同じ木からとってきたものだと感じられるような話を する。 ○イメージしたことをその子どもなりに表現し ているところを認める。	

<p>12:50</p>	<p>○葉っぱ家族探しについて聞く。</p> <p>○2人組になる。</p> <p>○2人組で葉っぱ（木）を探しに行く。</p> <p>○葉っぱ家族について2人で相談する。</p> <p>○葉っぱを貼る。</p> <p>○名前を考える、書く。</p>	<p>○一つの木、同じプランターから葉っぱをとって家族にすることを話す。</p> <p>○友達と一緒に探すこと、葉っぱにも命があることを知らせ、むやみに葉っぱを取らないことを知らせる。</p> <p>○背の届かない葉っぱは先生にとってもらってよいことを知らせ、安心させる。</p> <p>●2人組は話し合いができるメンバーを考えておく。</p> <p>○どの木にするかなど2人で相談できているか様子を見て声をかける。</p> <p>●必要に応じて椅子や脚立などを使う。</p> <p>○雨の日には傘を差して探しに入ってもよいことを話し、傘の取り扱いには気をつけるように声をかける。</p> <p>○自分の意見を言うと共に友達の意見も聞いているか様子を見て声をかける。</p> <p>●紙はいろいろな大きさを用意しておき、葉っぱに合わせられるようにする。</p> <p>○子ども達がイメージしたことに共感したり、周囲にも知らせていけるようにする。</p> <p>○2人のイメージが共有できないときには教師が仲立ちとなるようにする。</p> <p>○字を書くのは無理強いせず必要に応じて援助する。</p>	<p>かご</p> <p>椅子脚立</p> <p>画用紙 制作版 画板</p> <p>鉛筆 消しゴム</p>
<p>13:15</p>	<p>○葉っぱ家族について発表したり聞いたりする。</p>	<p>○早くできた子どもには家族の紙に書き足してもよいことを伝える。</p> <p>○2人で考えた葉っぱ家族について話ができるようにする。</p>	
<p>13:30</p>	<p>○葉っぱ家族をピロティに置き、友達の家族も見て保育室に戻る。</p>	<p>○子ども達がイメージした家族に共感したり、楽しいところを見つけられるような話し合いがもてるようにする。</p> <p>○友達の作品を見ると共に、友達やおうちの人に見てもらえるという期待感をもたせて保育室に帰る。</p>	<p>ピロティに机</p>

◆先生方へ

*教師の研修のねらい

- ・一人ひとりの自然に対する見方を知る。
- ・葉っぱ家族について2人でどういう過程で話し合いをしているのか知る。

以上、2点を本日の園内研修のねらいとしています。

そのため下記のように園児の様子を把握するようにお願いいたします。

- ① 子どもがどんな風に木や葉っぱを選んでいったか。話をしていたか。
- ② どんな風に葉っぱを家族に見立てて2人で話し合っていたか。

以上の点を付箋に書き記録してください。以上よろしく願いいたします。

保 育 指 導 案

吹田市立古江台幼稚園
いちご組担任 喜田 啓子

日 時 平成26年 9月 25日(木) 12:40 ~ 13:40

場 所 吹田市立古江台幼稚園 ピロティ (傘リズム室)

園児数 ぶどう組年長児 12名(男児 8名 女児 4名)
いちご組年長児 13名(男児 7名 女児 6名) 計 25名

○活動 「色を探そう！」

○ねらい

- ・様々な角度から物を見て、「色」に気付く。
- ・自分の考えを友達に伝える楽しさを知る。
- ・友達の思いや発見を知り、新しい考え方や見方に気付く。

○内容

- ・身近な自然の中から、赤色や緑色の自然物を探す。
- ・友達に自分の気付いたことを話し、友達の気付いたことを聞く。
- ・話を聞いて共感したり、なぜだろうと不思議に感じたりする。
- ・自然物の様々な色に気付く。

○幼児の実態

- ・プール遊びでは水に潜ったり伏し浮きができるようになったり、友達同士刺激し合いながら一人ひとりが手応えを感じ、自信をつけた。進んで新しいことにチャレンジする姿も見られる。
- ・夏休みの間に、園生活のルールや約束を忘れてしまった子どもが多く、少しずつ確認しながら取り戻しているところである。
- ・教師が設定した活動は楽しそうに取り組んでいるが、「もっと～したい！」と工夫をしたり、遊びを深めたりする姿はあまり見られず、受け身の姿勢で活動することが多い。
- ・クラスの仲間意識や5歳児としての自覚も少しずつ芽生えてきているが、自信をもって自分の考えや思いを伝えたり、友達の話を最後まで聞いて、考えたりする活動は苦手だと感じる。

○題材について

- ・1学期に、はぎのき公園の自然のなかで「大発見」を楽しんだり、年長児だけで「葉っぱ家族」を作ったりして「気付く」経験を重ねてきた。自分のイメージを形や言葉にし、友達と思いを共有しながら、伝え合うことも少しずつできるようになってきている。先日行った樫の木公園では、虫を探しながら「葉っぱや土の色と同じやから見えへん」という声も聞こえてきた。
- ・夏から秋への自然に変化が見られるこの時期、「色」に視点を置き、同じものでも茎と葉っぱでは色が違うことなど、どこをどんなふうに見るかで「見え方」が違うこと、また友達と考え方が違っても良いことに気付いて欲しいと思い今回の保育を設定した。
- ・全員で活動を振り返り、友達の考えに気付いたり共有したりできるように話し合う時間を設ける。

○指導の展開

時間	幼児の活動	○援助 ●環境構成	準備物等
12:35	○ピロティへ移動する。	○排泄をすませておくよう声をかける。	
12:40	○赤や緑の物を言う。 ○「色を探そう」の活動のやり方を知る。 ○ペアの友達と座る。	○これからの活動に共通のイメージがもてるように、赤や緑色の物を出し合う。 ○教師が見つめてきた「自然物」を見せ、どこがどんなふう好きかを具体的に伝える。 ●ペアの友達は教師が決め、誰が見てもわかるように書いておく。	

12:55	<p>○ペアの友達と選ぶ色を決める。</p> <p>○色を見つけに行く。 ☂:傘をさして、見つけに行く。</p>	<p>○決め方はお互いが納得できるようにする。</p> <p>○ペアの友達と「自慢大会」をすることを伝え、相談してひとつだけ自然物を持ってくるように伝える。</p> <p>○園内にある物はとっても良いが、命のある物なのでむやみにとらないことを伝える。</p> <p>●自然物に限定し、じっくりと探せるようにする。(虫などの生き物も子ども達が見つけてくれば良い)</p> <p>○終わりの時刻を伝え、見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>●雨の場合は、傘をさして探しに行く。傘の扱いは危険のないよう注意する。</p>	色の絵本 画用紙 (赤、緑)
13:10	<p>○リズム室に戻る。</p> <p>○赤か緑の画用紙を取る。</p> <p>○画用紙の上に見つけた物を置く。</p>	<p>●雨天時は、画用紙の上に置くときに雑巾で拭くように声をかける。</p> <p>○子どもの気付きを認めたり、引き出したりするような言葉かけをする。</p> <p>○どうしても自然物が見つからないときは様子を見て声をかけ、一緒に考える。</p> <p>○2つ以上選んでいるペアには、相談して1つにするように伝える。</p> <p>○子ども達が気付いていることに自覚できるように言葉かけをする。</p> <p>●隣のペアと合体させ、4人で話ができるようにする。</p> <p>●画板に名札をはり、すぐに座って話ができるようにする。</p> <p>●友達の見つけた自然物が見られるように、同じ色の画用紙を並べる。</p>	はさみ プリンカップ等
13:15	<p>○ペアの友達と、自分の見つけた自然物の色について話をする。</p> <p>○同じ色の画用紙を1列に並べる。</p> <p>○友達の見つけた自然物について思ったことを言う。</p>	<p>○子ども達が気付いていることに自覚できるように言葉かけをする。</p> <p>●隣のペアと合体させ、4人で話ができるようにする。</p> <p>●画板に名札をはり、すぐに座って話ができるようにする。</p> <p>●友達の見つけた自然物が見られるように、同じ色の画用紙を並べる。</p> <p>○気付いたことを受け止め、みんなで共感する。子どもの言葉を大切にし、最後まで話が聞ける雰囲気を作る。</p>	画用紙 雑巾
13:30	<p>○活動を振り返る。</p>	<p>○活動全体を振り返り、これで終わりではなくまたやってみたいと思う気持ちをもてるようにする。</p> <p>●年中児や、保護者に見てもらえるようにリズム室に置いておく。</p> <p>●風で飛んでしまうような物(葉っぱ)は、テープで留めても良いことを知らせる。</p>	
13:35	<p>○保育室に戻る。</p>		

◆先生方へ

*教師の研修のねらい

- ・子ども達がどのように自然物を選んだのか、物の捉え方や見方を知る。
- ・自分の気付いたことをどのように友達に伝えていたかを知る。

以上、2点を本日の園内研修のねらいとしています。

そのため下記のように園児の様子を把握するようにお願いいたします。

*どこに視点を置いて「色」を選んでいたのか。

*画用紙の上に置いたときに、何に気付きどのように感じていたか。

以上の点を付箋に書き記録してください。よろしく願いいたします。

事務連携部

H26年度「幼小中一貫教育における事務職員の役割」

古中ブロック事務連携部は、平成18年度にスタートし、9年が経過しました。

今年度は、津雲小1名、古小1名、古中1名の3名で、活動しました。事務連携部では、下記のように、推進委員会を含めた幼小中一貫教育活動の連絡・調整・記録・発信（周知）などの役割を担っています。また、必要に応じて事務連携部会を開き、直接顔を合わせ話をする中で3校の学校事務効率化を図ること、業務の相互支援を行っています。

■ 推進委員会内の役割

- ①月1回定例開催されている推進委員会の会議録を「ジョイント+++プラス」として作成し、会議内容を中学校ブロックの全教職員で共有できるようにした。
- ②中学校ブロックの全教職員で参加する夏季・冬季合同研修会の案内作成、連絡、準備、受付、記録などを担当し、保存用資料として残した。また、夏季・冬季合同研修会を含む活動内容を学期ごとに「JOINT」として作成・周知するための連絡・調整などを行った。
- ③「研究報告集」の編集印刷作成を担当、保存用資料として残した。
- ④ブロック幼小中一貫教育推進事業予算会計を担当した。

■ 職務に関わる連携（「事務連携部会」での内容）

- ①ブロック推進委員会での会議内容を確認し、役割分担を行った。
- ②財務会計や教科書の新しいシステムに関することについて情報交換・意見交流し、適正な事務処理の共通認識を図った。
- ③事務・学校運営に関わる校内体制について情報交換・意見交流し、効果的な運営などの共通認識を図った。
- ④中学校の入学説明会・入学に向けて、小学校名簿データの提供や内容の交流などを実施し、スムーズな入学準備につなげた。
- ⑤幼小中一貫教育推進につながる事務連携を模索した。

取り組みの継続として、研究授業や合同研修会、「言語力育成モデル」の見直しなど、ブロックとしての幼小中一貫教育推進のための活動に関わることができました。また、今年度より古中ブロックとしてのホームページを立ち上げることもできました。今後とも内容の作成や更新作業において事務連携として関わりを持つように考えています。このような活動の一方で、各校の時間調整・確保が難しくなっていることも現状であり、運営などに一層の工夫をする必要があります。

来年度からはブロックの小学校2校が英語の特例校となります。事務連携として特例校に関する意識を持ち、職性を活かしながら情報の共有を図ります。今後も、幼小中一貫教育推進、ブロック共通テーマにつながる活動、各校の学校経営・学校事務の充実につながる活動を行います。

(言葉での思考の深め方)

幼小中一貫教育における「言語力の育成」をめざした授業づくりのために

内容/発達段階	幼稚園	小学校(低学年)	小学校(中学年)	小学校(高学年)	中学校
めざす子どもの姿 (主体は子ども)	○自分の思いを出して友だちとかかわって遊ぶ	○体験の中で様々な言葉を知っている	○自分で使える言葉をもっている	○意図・目的にそった説明する言葉を持っている	○各教科の専門用語を理解し、課題を発見し、自ら課題を解決していく言葉を持っている
具体的な 子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な言葉がわかる 絵本や物語などに親しみ、先生や友だちと心を通わせる 	<ul style="list-style-type: none"> 教科学習の中で必要な言葉が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを言葉にすることができる 教科特有の言葉について理解することができる 事象に対する考えについて教科の言葉を使って説明することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 双方向のやり取りを行なうための言葉を持っている 教科特有の用語について理解することができる 事象に対する考えについて教科の言葉を使って説明することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 議論して、問題解決するための言語を持っている 各教科の専門用語について理解することができる 論理的に分析・評価する言語を持っている
大切にしていくこと (主体は指導者)	*一人ひとりの子どもの思いをじっくりと聞く	*豊かな言葉に触れさせ、正しい言葉よい言葉を見つけさせるようにする	*言葉を意識して使えるように指導する *気持ちが伝わるように書かせる	*わからない言葉をそのままにしないように指導する	*各教科の専門用語や単語を理解させ、学力の土台として定着させる
幼小中の実践例 (具体的取組)	<ul style="list-style-type: none"> 教師の話や話を聞く 絵本や物語の読み聞かせ 集団遊びをする中で、ルールを話し合う 描いたり、制作をする 歌を歌ったり、合奏を経験する 楽器の名前を覚える 	<ul style="list-style-type: none"> 読書 音読 暗唱 視写 聴写 観察カード 絵本の読み聞かせ 言葉集めゲーム 豊かな言葉を取り上げ、評価 感情表現する言葉 教科の用語や定義を知る 既習事項や用語をいつも目に触れるように掲示しておく 用語や既習事項を何度も繰り返し、指導する 聞き名人のルールを意識させる 感想の言葉カード 伝言ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> 読書 音読 暗唱 「言葉のポケットノート」を作り、国語に限らず読書や他教科で出てきた言葉の意味を調べて記録していく 漢字やローマ字の反復練習をする 音読を通して言葉の発音、言い回しに慣れる 朗読を通して言葉を音で覚える 教科の用語や定義を知る 既習事項や用語をいつも目に触れるように掲示しておく 用語や既習事項を何度も繰り返し、指導する 聞き名人のルールを意識させる 自分だけの国語辞典を作る 音読対決 音読発表会 国語辞典(赤線・ふせん)の活用 ことわざ、故事成語ブックを作り語彙力を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 読書 音読 暗唱 「言葉ファイル」の活用 短文づくり 音読(音読対決) 暗唱 辞書活用 (国・社では、特に使用→授業時、机に置いておき、即活用) 「言葉の宝箱」を活用し、言葉の意味や表現技法を学ぶ 教科の用語や定義を知る 既習事項や用語をいつも目に触れるように掲示しておく 用語や既習事項を何度も繰り返し、指導する 聞き名人のルールを意識させる 日記指導 言葉の言い換え 短歌・俳句づくり 	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 辞書・便覧・読書・新聞・音読・コミュニケーション 自分が知らない言葉に積極的に触れる 文章全体を対象とした課題を工夫する表現や構造にもこだわる 評価したり、批評したりしながら読む「しかけ」に工夫しながら、読みを深める 文章全体の表現や構造に注目する 評価したり、批評したりしながら思考し、読みを深める 「書くこと」によってまとめたり、発信したりする学習スタイルを常態化する <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事項の語句を学習する 社会科ワークの重要事項をまとめる <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> 用語の意味の確認を数多く行う 多様なテキスト(式・表・図・グラフなど)で問題を提示する 系統立てた反復により基礎・基本の定着を図る 記述を求めず、口頭で説明させる <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書やワークシートの音読をしっかりとさせる なぜそうなるのかという問いかけを大切に 理科的な言葉で説明させる 大切な用語等はクラス全員で発音する 体験活動の充実:観察・実験や様々なコンテンツから自然現象についての情報を受信する機会を充実する <p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら感じたことや自分な解釈したことを言葉に表す 音楽を形づくっている要素や構造を理解する <p>【美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> 色・構造・色彩;言葉に置き換えて伝えあう <p>【技術・家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点を提示し、自分の考えや感想を書き、グループで発表し合い、交流する 技術科:実践的・体験的な学習活動により、実感を伴って語彙の意味を理解して習得させる 家庭科:体験と言葉をつなぐ、実体験し言葉の意味を理解する体験したことを言葉で振り返る <p>【保健体育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作戦会議等コミュニケーションを増やす 各種目の専門用語を覚える 技術、戦略、ルールなどへの理解 健康・安全に対する理解と配慮 勘や直感、経験に基づく知恵の獲得 <p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で習った単語を繰り返し練習し、小テストなどで定着を図り、語彙力を増やす 様々な言葉を知って、単語に触れさせる 様々な(読む・書く)なテキストを受信する 4技能をバランスよく取り入れる(ルーティンワークとも関連づける)
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友だちと一緒に行動したり、やりとりをしたりすることを通して、次第に日常生活に必要な言葉がわかるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中、発表するときの言葉のバリエーションが増えてきている 	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉のポケットノート」の自分の調べた言葉の意味を繰り返し見て言葉の意味を知る機会が増えた 毎日の音読学習で物語文を暗唱できる児童も増えてきた 行事ことの作文に、自分の気持ちが伝わるように書くことができるようになってきた 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい言葉を知る、手にすることに対する意欲向上がみられる 分からない言葉がなくなることで、文章内容の理解がしやすくなった 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ喜びを体験することによる生涯にわたって学んでいこうとする態度を育成する

(言葉での思考の深め方)		幼小中一貫教育における「言語力の育成」をめざした授業づくりのために			
内容/発達段階	幼稚園	小学校(低学年)	小学校(中学年)	小学校(高学年)	中学校
めざす子どもの姿 (主体は子ども)	○自分の思いを出して友だちとかかわって遊ぶ	○型に沿った表現をすることができる	○自分の考えを伝えるために表現することができる	○目的や相手を意識して表現をすることができる	○体験から感じ取ったことを表現することができる ○事実を正確に理解し伝達することができる ○概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用することができる
具体的な 子どもの姿	・生活の中で必要な言葉を使うことができる	・表現方法をまねて、自分や身近な人やものに置き換えることができる	・自分の考えや意見にあった言葉を探して表現することができる	・目的にあわせて効果的に表現できる	・友だちの意見を聞いて、自分の考えをまとめる表現することができる ・議論することができる
大切にしていくこと (主体は指導者)	*一人ひとりの子どもに応じた言葉がけをする	*基本の型を身につけられるようにすること	*言葉に立ち止まって考える時間を設定する *考えをはっきり伝えるために表現する *文章の組み立てを考えさせる *筋道を立てて考えさせる	*発表や表現の機会を多く提供する *多くの文章を継続的に声に出して読むことで、さまざまな表現方法を身につけられるようにする *効果的に書くためのモデル(型)を提示する *教え合いの機会を多く提供する	*学習した専門用語を用いて、「書く」「話す」などの表現活動をする *表現活動には一定の「型」を示し、パターン化した練習を取り入れる
幼小中の実践例 (具体的取組)	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする 「入れて」「貸して」「いいよ」等の遊びの中で必要な言葉を使う 歌の歌詞の意味を知る じゃんけんをする 描いたものや制作したものの説明をする 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習での文作り 日記 スピーチ 対話 グループでの話し合い 言葉あそび(クイズ) 教科書の手引きにそった言葉の活用 言葉、式、図を使って、自分の考えを伝える 文章題の問題文を子どもたちに作らせる 教材に合わせてペア・グループ、クラス全体で伝え合う 発表がんばりカードを活用する 話し名人のルールを意識させる 話し合いのルールを意識させる 体験したことや学んだことを他学年に伝える 「はじめに」「つぎに」など、文章の言い方(話型)を提示する 質問、感想を述べる。メモをとる。一行日記。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書く」の領域を利用して接続詞や文末表現を身につける 教科書の「言葉のちから」を意識して学習し、学んだ「言葉」を教師に提示し、いつでもその言葉がつかえるようにする 発表の際、算数用語を使い、自分の考えを伝える 算数用語を意識させる 教材に合わせてペア・グループ、クラス全体で伝え合う 発表がんばりカードを活用する 話し名人のルールを意識させる 話し合いのルールを意識させる 文の組み立てを考える 体験したことや学んだことを他学年に伝える 作文のための文の組み立てをワークシートを利用して練習させる 定期的に生活作文を書いて、「自分の考え」を常に意識する お礼の手紙で相手意識・目的意識をもたせる 体験活動のふり返り・記録を文章でまとめる 異学年間で調べたことなどの教え合いの機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の教科書にある手引き「言葉の使い方」を資料としてまとめて配布 「書き方マニュアル」を作成し、配布 資料を活用した文章を型を参考にしながら書く 多様な解き方を考え、まとめたり、発表させたりする 解決の仕方を全体に伝える 隣同士やグループでの教え合い学習で、友だち同士教え合う 友だちの考えを伝えさせる 教材に合わせてペア・グループ、クラス全体で伝え合う 発表がんばりカードを活用する 話し名人のルールを意識させる 話し合いのルールを意識させる 報告会、伝え合いの会等で、体験したことや学んだこと、調べたこと、自分の意見を他学年に伝える場を持つ 日記指導 	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表したり書いたりする機会を増やす 論理的に展開するために「まず」「次に」など順序立てる言葉を用いる 小グループで話し合う場面を設定し、考えを交流・共有できるように工夫する プレゼンテーションの機会を多くする <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> テストや練習問題で記述問題に取り組む 表現の仕方、レポートのまとめ方 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的パターンの練習 説明の中で、繰り返し重要な言葉を使う 何を根拠としているかを明確にしながらか話しを進める 日常生活と関連つけた問題場面を提示する 発展的学習を充実させるために教材を精選する <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋道を立てる 言語活動(記録・要約・説明・論述・討論・発表など)を充実する レポートなどに「理科的な言葉」を使って作成する <p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽が形づくっている要素や構造などを理由としてあげながら音楽のよさや美しさについて述べ、自分にとっての価値を明らかにする <p>【美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> 色・構造・色彩をいかした表現活動 <p>【技術・家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで話し合ったことをまとめて、分かりやすく発表する 技術科;言語(設計図、フローチャートなど)を活用し、理解の解決をめざす 家庭科;相手に合わせたコミュニケーションを思考し、実践する <p>【保健体育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門用語を使って表現する ダンス等で計画表を作成する(課題解決に向けての検討) 資質・能力の向上(自分の状況にあてはめて活用する) <p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 習った単語や文法を使い、ペアワークやパターンプラクティスで定着させる ICTを積極的に取り入れることで、学習事項の理解を深める 伝えたいこと、話したいことを実生活に即した形で表現する
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を見たり、物語を聞いたりして楽しみ、そこで想像上の世界に出会い、様々な思いを巡らし、その思いなどを教師や友だちと共有したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように言葉を選んで発表できるようになる 基本の形にそった文章を書くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 教室提示によって、つねに意識してその言葉を使おうとする児童が増え、他教科では学んだ言葉を使って発表することができていた 考えたことを順序立てて文章にすることができるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを活用し、文章化することへの抵抗が減ってきている 「～から分かるように」「資料～は、～を表したものです」などの言葉を活用しながら自分で文章が書けた 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション活動の重要視により、互いに問題を共有しあい、互いが生きていくことの重要性を感じる態度を育成する 自己理解のための活動の重視、社会生活との関わりの中で、自分の生き方を考える力を育成する

言葉の増やし方
習得(知識・技能)



言葉の使い方(運用)
活用(表現・言語活動)



言葉での思考の深め方
探究(活用・思考力・判断力・表現力)

(言葉での思考の深め方)

幼小中一貫教育における「言語力の育成」をめざした授業づくりのために

内容/発達段階	幼稚園	小学校(低学年)	小学校(中学年)	小学校(高学年)	中学校
めざす子どもの姿 (主体は子ども)	○自分の思いを出して友だちとかかわって遊ぶ	○気づきや感想、考えを伝え合することができる	○根拠をもとに自分の考えを伝え合ができる	○自分の立場を明確にし、他者の考えと比較しながら、自分の考えを伝え合することができる	○課題について、構想を立て実践し、評価・改善することができる ○互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることができる
具体的な子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを言葉にすることができる 友だちの話しに興味を持って聞き、共感することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気づきや感想、考えを伝え合することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をもとに自分の考えを伝え合することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立場に明確にすることができる 意見交流を通して、視野をひろげることができる さまざまな意見を踏まえた上で、自分の考えを深めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 考え、判断し問題解決に導くことができる
大切にしていくこと (主体は指導者)	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとかかわりをとらえ、それに応じた言葉かけをし、言葉を交わす喜びを味わえるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使って思いや考えを説明する場面を設定する 「わかい」を視点に、選択させる 「わかりやすい、かんたん、いつでもできる」 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に対して、ふさわしい言葉を用いながら自分の考えを説明させる 言葉はおもしろいと思うこと、言葉を好きになること、よりふさわしい言葉を使おうとすることを意識する 「わかい」を視点に、考えを整理する 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の考えと自分の考えを比較し、共通点、相違点を理解させるようにする 他者の意見をもとに自分の意見を深める、個の振り返りの時間を大事にする 「わかい」を視点に、考えを修練する 	<ul style="list-style-type: none"> まとめたり、比較したり、評価したり、言葉を用いた活動を通して思考力を深める 思考スキルを活用する(シンキングツールの活用)
幼小中の実践例 (具体的取組)	<ul style="list-style-type: none"> じゃんけんて勝ち負けを認識する 集団遊びをする中で敵や味方を認識し、友だちとの関わりをもつ 自分の思いを絵や制作物で表現し、教師や友だちを伝えることができるようになる 楽器の扱い方について相談する いい声で歌うことの大切さに気付く 絵本や物語のお話の世界を楽しみ、劇あそびをする 	<ul style="list-style-type: none"> 気づきや考え方、感想等を書く 式、絵、表を言葉で説明する 考えの理由になることをはっきりさせ、説明する イメージ化させやすい身近な題材を提示する 友だちの考えと自分の考えを比べながら聞く 想像に合った言葉を使い、物語を書く グループでの発表、お互いに評価し合う、自己評価・相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生、4年生で学ぶ、紹介文、記録文、生活感想文、案内文、調査報告文、広告等の説明文、身のまわりのニュースなどで用途に合わせた言葉を使って文を書く 書いた分を友だちと読み合い、感想を出し合う 考えの理由になることをはっきりさせ、説明する イメージ化させやすい身近な題材を提示する 友だちの考えと自分の考えを比較しながら話し合う ミニ討論会 各教科の中でキーワードを使った学習のまとめを書き、伝え合う 場面に応じた言葉に、折にふれ直させる話し言葉と書き言葉の違いをはっきりさせる 	<ul style="list-style-type: none"> パネル討論 算数などで考え方を言葉で書く 各教科で学習のまとめや感想を継続的に書く 考えの根拠になることをはっきりさせ、説明する イメージ化させやすい身近な題材を提示する 友だちの考えと自分の考えを比較しながら話し合い、自分の考えを深める 	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つ以上のものを比較して共通点や相違点を見つける 文学的文章において、多様な視点や観点に立って、既習事項を用いて課題問題を解決する 要旨をとらえ、自分の考えを深める <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート力、ノートなどのまとめ力の育成、ワークでの調べ学習 ワークを自己評価する 深い探究に結びつく活用の授業を重視 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> 式が何を表しているかを考える なぜ答えがそうなるかを考える 考え方を何人かで相談し、説明する 考えたことをレポートにまとめる機会を多く設ける 相互評価することで、生徒同士が互いに高めあうようにする <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の結果を班で話し合い発表する 活用の展開：知識や技能を活用する学習活動やパフォーマンス課題を導入する 振り返り：自己評価表(ポートフォリオ評価)を導入する <p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら感じたことや自分なりに解釈したことを基に話し合い、他者の感じ方や解釈も参考にして、より深く音楽を鑑賞する <p>【美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論じ合い、感受性を高める鑑賞活動 <p>【技術・家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の発表を聞き、自分の考えと比較して、見直し思考を深める 技術科：(個→集団→個)の学習活動の流れにより、「工夫し創造」や「読解力」を育成する 家庭科：情緒・完成を磨く言語活動 <p>【保健体育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画表を作成する 演技(動き)を言葉でメモするレポートを作成する 自己評価⇄相互評価 発表(説明)→振り返り <p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した表現や文法を使い、テーマに沿った自分の考えを英語で発表する 英文を読むことによって、異文化に関する理解を深める 自己評価・相互評価の導入
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> 言葉に対する感覚を養い、状況に応じた適切な言葉の表現を使うことができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの考えを書くようになってきた 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの文章の中から学んだ言葉を探したり、接続詞の多用が減ってきて、適切な接続詞も増えてきた 	<ul style="list-style-type: none"> 書く意欲が高まり、自分の考えを整理し、深めることにつながっている 事実(学習内容)と自分の考えを分けて、わかりやすく書けるようになった 理由を付けて自分の考えを書けるようになった 抽象的な内容ではなく、具体的に書けるようになってきた 	<ul style="list-style-type: none"> 文章や図表、現象などを理解・評価しながら捉える力や自分の考えをまとめる力を育成する 自分なりに課題を発見、自らの課題を解決していく態度と能力を育成する

国語力向上のための 「古江台中学校ブロック」スタンダード

国語力の向上につい長瑠用に全教科・全領域において目標と場面を設定し実践していく
個々にとりくんだ実践は、全教職員で共有し検証・発展させていく。

1. 読む力の育成

- ・ 選定された古中ブロック100冊の本を9年間で読ませる。

2. 聞く力の育成

- ・ 相手の話をよく聞いてから、自分が話をするようにするなど会話のマナーを身につけさせる。(『議論のルール』を別に定める。)
- ・ 教師はていねいな言葉使いをする。

3. 話す力の育成

- ・ 授業や生活の中で、単語ではなく文章で話しをさせる。
- ・ どの児童・生徒にも発表の機会を与える。
- ・ 教師や保護者は子どもの話をよく聞くようにつとめる。

4. 書く力の育成

- ・ 読み手にわかりやすい文章を書かせる。
- ・ 日記、班ノートなどの日常的に書く機会を与える。
- ・ 授業の中で、シンキングツールやワークシートを用いて文章を書く工夫をさせる。
- ・ 教師は子どもの作文にはコメントをつけて、書く意欲をもたせる。

5. 漢字力の育成

- ・ 指導法の工夫と改善をすることで、漢字力の定着をはかる。

『議論のルール』

低学年

- ①話を聞くときは、話しをしている人の方を見る。
- ②話を聞くときは、最後まできちんと聞く。

中学年

- ①分からないことがあったら、すぐに質問する。
- ②話を聞くときは、話している人の方を見る。
- ③話を聞くときは、他のことをしない。
- ④最後まで、きちんと話を聞く。
- ⑤どのような意見であっても間違いと決めつけない。

高学年

- ①他人の発言をさえぎらない。
- ②話す時は、だらだらとしゃべらない。
- ③話す時に、おこつたりないたりしない。
- ④分からないことがあったら、すぐに質問する。
- ⑤話を聞く時は、話している人の方を見る。
- ⑥話を聞く時は、他のことをしない。
- ⑦最後まで、きちんと話を聞く。
- ⑧議論がだいなしになるようなことを言わない。
- ⑨どのような意見であっても、間違いと決めつけない。
- ⑩議論が終わったら、議論の内容の話はしない。

中学生

- ①話す内容を整理して（メモをとるなど）から話す。
- ②建設的、協調的な発言をこころがける。
- ③誰でもが自由に発言できる雰囲気をつくる。

生徒指導連携部会

今年度は、5月15日（木）（16:00～17:00）古江台中学校において、小学校は昨年度の6年生担任と生活指導担当、中学校は現1年生担任と生徒指導担当が集まり、児童・生徒指導交流会を開催し、今年度中学1年生の子どもたちの様子について、情報交換をしました。

小学校の旧担任にとっては、中学校での新たな一面を知ることができ、また中学校の担任にとっては、小学校での様子を詳しく知ることができ、小中でのギャップ・段差を考える、とても良い機会となりました。

A B C運動

- | | | |
|---|------|-----------------|
| A | あいさつ | （コミュニケーションの第一歩） |
| B | ベル着 | （時間を守る） |
| C | クリーン | （学習できる環境づくり） |

授業規律の教師心構え9ヶ条

- ① チャイム着席の指導
- ② 授業の始めと終わりの「けじめ」をつける
- ③ 机の整理整頓の指導
- ④ 名前を呼んだときの返事の励行
- ⑤ 勝手に立ち歩かせない
- ⑥ 意見があるときは手を挙げて発言させる
- ⑦ 忘れ物をしない指導
- ⑧ 正しい言葉遣いの指導
- ⑨ 使用した物の後片付けの指導

古中フロック100冊の本 No. ①

(平成20～25年度)

小学校版 60冊

小学校 (低学年)		小学校 (中学年)		小学校 (高学年)	
書名	著者名	書名	著者名	書名	著者名
1 14ひきのシリーズ	いわむらかずお	1 二ちょうめのおぼけやしき	木暮正夫	1 アンネの日記	アンネ・フランク
2 あかちゃんてね	星川ひろ子	2 大どろぼうおツエブ ロツ	ワットフリード・ポロイスター	2 ガラスのうさぎ	高木敏子
3 エルマの冒険	ルス・スタイルス・ガネット	3 おしいれのぼうけん	古田足日	3 消えた国旗	斉藤尚子
4 王さまと九人のきょうだい	中国民話	4 かいぞくポケットシリーズ	寺村輝夫	4 木を植えた男	ジャン・ジオノ
5 おさるはおさる	いとうひろし	5 かわいそうなぞう	土家由岐雄	5 銀河鉄道の夜	宮沢賢治
6 おれはティラノザウルスだシリーズ	宮西達也	6 霧のむこうのふしぎな町	柏葉幸子	6 銀のほのおの国	神沢利子
7 からすのパンやさん	かこさとし	7 くまのパデイントン	マイケル・ホルト	7 五体不満足	乙武洋匡
8 くまの子ウーフシリーズ	神沢利子	8 車のいろは空のいろ	あまんきみこ	8 西遊記	渡辺仙州
9 ぐりとぐらシリーズ	中川李枝子	9 こそあどの森シリーズ	岡田淳	9 三国志 1～5巻	三田村信行
10 ごんぎつね	新美南吉	10 シートン動物記		10 砂のゲーム	ウーリー・オルレブ
11 さっちゃんのまほうのて	田畑精一	11 せかいいちうつくしいぼくの村	小林豊	11 精霊の守り人	上橋菜穂子
12 すてきな三人ぐみ	トミー・アンゲラー	12 ちいさいおうち	バージニア・パートン	12 世界がもし100人の村だったら	池田香代子
13 ちからたろう	いまえよしもと	13 ちいさなスプーンおばさん	アルフ・プロイセン	13 チョコレート工場の秘密	ロアルド・ダール
14 とべバッタ	田島征三	14 ちびっこカムのぼうけん	神沢利子	14 ナルニア国物語シリーズ	C・S・Lewis
15 ともだちや	内田麟太郎	15 とべないホテル	小沢昭巳	15 二分間の冒険	岡田淳
16 にじいろのさかな	マークス・フィスター	16 ふしぎなかぎばあさん	手島悠助	16 葉っぱのフレディ	レオ・バスカリア
17 はらぺこあおむし	エリック・カール	17 目をさませトラゴロウ	小沢昭巳	17 走れメロス	太宰治
18 ひろしまのピカ	丸木俊	18 ももいろのきりん	中川李枝子	18 ヘレンケラー	
19 ぼくは王さまシリーズ	寺村輝夫	19 やかまし村の子どもたち	アストリッド・リンドグレーン	19 モモ	ミヒヤエル・エンデ
20 モチモチの木	斎藤隆介	20 わたしたちのトビアス	セリア・スバドベリ編	20 ユンボギの日記	

中学校版 40冊

書名	著者名	書名	著者名	書名	著者名
1 のはらのうた (シリーズ)	工藤 直子	15 そんな友だちなら、いなくたっていいじゃないか	齋藤 孝	29 ハムレット、ロミオとジュリエット、など (シリーズ)	シェイクスピア
2 茨木のり子詩集	茨木のり子	16 モンテ クリスト伯	アレクサンドル・デュマ	30 宝島	スチブンソン
3 にんげんだもの	相田みつを	17 いま生きているという冒険	石川 直樹	31 長靴下のピッピー	リンドグレーン
4 坊ちゃん、三四郎、こころ、我が輩は猫であるなど	夏目 漱石	18 リュパン対ホームズ	モーリス・ルブラン	32 クリスマスキャロル	ディケンズ
5 杜子春、蜘蛛の糸、など	芥川龍之介	19 ぼくは勉強ができない	山田 詠美	33 星座を見つけよう	HALI
6 幸福な食卓	瀬尾まいこ	20 星の王子さま	サンテグジュペリ	34 スノーピーはふつうの犬じゃない	シュルツ
7 二十四の瞳	壺井 栄	21 カモメに飛ぶことを教えた猫	河野万里子	35 龍馬がゆく、項羽と劉邦、など (シリーズ)	司馬遼太郎
8 しろばんば	井上 靖	22 もしも月がなかったら	ニール・F・カミングス	36 ぼくらはガリレオ	板倉聖宣
9 伊豆の踊子	川端 康成	23 大地	パールバック	37 数の悪魔：算数・数学が楽しくなる12夜	エンツェンスベルガー
10 夜のピクニック	恩田 陸	24 大地の子	山崎豊子	38 君の可能性	齋藤喜博
11 キッチン	吉本ばなな	25 赤毛のアン、など	モンゴメリ	39 君たちはどう生きるか	吉野源三郎
12 夏の庭	湯本香樹美	26 十五少年漂流記、など	ヘルヌ	40 生きることの意味	高史明
13 ポッコちゃん	星 新一	27 若草物語	オールcott		
14 サラダ記念日	俵 万智	28 エミールと探偵たち	ケストナー		

古中フロック100冊の本 No. ②

(平成26年度～)

小学校版 60冊

小学校 (低学年)		小学校 (中学年)		小学校 (高学年)	
書名	著者名	書名	著者名	書名	著者名
1 王様と九人のきょうだい	君島 久子 再話	1 大どろぼうホッツエンプロッツ	オットフリート・プロイスラー	1 アンネの日記	アンネ・フランク
2 おれはティラノサウルスだシリーズ	宮西 達也	2 ちいさいおうち	バージニア・パートン	2 五体不満足	乙武 洋匡
3 ともだちや	内田 麟太郎	3 ちいさなスプーンおばさん	アルフ・ブリョイセン	3 二分間の冒険	岡田 淳
4 にじいろのさかな	マーカス・フィスター	4 エルマーの冒険	ルース・スタイルス・ガネット	4 葉っぱのフレディ	レオ・バスカーリア
5 ふたりはともだちシリーズ	アーノルド・ローベル	5 びりっかすの神さま	岡田 淳	5 走れメロス	太宰 治
6 いいからいいから	長谷川 義史	6 龍の子太郎	松谷 みよ子	6 モモ	ミヒヤエル・エンデ
7 すてきな三人ぐみ	トミー・アングラー	7 ルドフルとイッパイアッテナ シリーズ	斎藤 洋	7 きまぐれロボット	星 新一
8 あらしのよるに	木村 裕一	8 モチモチの木	斎藤 隆介	8 ぼくらの七日間戦争	宗田 理
9 れいぞうこのなつやすみシリーズ	村上 しいこ	9 名探偵シリーズ	杉山 亮	9 世界がもし100人の村だったら	池田 香代子
10 おこだでませんように	くすのき しげのり	10 もったいないばあさんと考えよう 世界のこと	真珠 まりこ	10 100万回生きたねこ	佐野 洋子
11 ひろしまのピカ	丸木 俊	11 菜の子先生がやってきた	富安 陽子	11 すみれ島	今西 祐行
12 あのときすきになったよ	薫 くみこ	12 ムジナ探偵局シリーズ	富安 陽子	12 わすれられないおくりもの	スーザン・バーレイ
13 平和ってどんなこと?	浜田 桂子	13 蜘蛛の糸	芥川 龍之介	13 銀河鉄道の夜	宮沢 賢治
14 てぶくろをかいに	新美 南吉	14 大きな森の小さな家	ローラ・インガルス	14 ストライプ	ディヴィッド・シャノン
15 としょかんライオン	ミシェル・ヌードセン	15 車のいろは空のいろ	あまん きみこ	15 チョコレート工場の秘密	ロアルド・ダール
16 うしはどこでもモー	エレン・ワインスティーン	16 ふしぎなかぎばあさん	手島 悠介	16 ナルニア国物語	C・Sルイス
17 スイミー	レオ・レオニ	17 ロバのシルベスターとまほうの小石	ウィリアム・スタイグ	17 ヘレンケラー	
18 わたしはあかねこ	サトシン	18 わたしのいもうと	松谷 みよ子	18 合言葉はフリンドル!	アンドリュー・クレメンツ
19 ええところ	くすのき しげのり	19 こぎつねコンとこだぬきポン	松野 正子	19 宇宙をみたよ!	毛利 衛
20 へんてこもりのなまえもんシリーズ	たかどの ほうこ	20 はれときどきぶた シリーズ	矢玉 四郎	20 トイレのおかげ	森枝 雄司

中学校版 40冊

書名	著者名	書名	著者名	書名	著者名
1 西の魔女が死んだ	梨木 香歩	15 シャーロック・ホームズの冒険	コナン・ドイル	29 星座を見つけよう	H A レイ
2 のはらうた (シリーズ)	工藤 直子	16 下町ロケット	池井戸 潤	30 風が強く吹いている	三浦 しをん
3 茨木のり子詩集	茨木 のり子	17 少年H	妹尾 河童	31 もしも月がなかったら	ニール F カミングズ
4 永遠の0	百田 尚樹	18 クリスマスキャロル	ディケンズ	32 数の悪魔	エンツェンスベルガー
5 大地	パールバック	19 竜馬がゆく、項羽と劉邦	司馬 遼太郎	33 ぼくらはガリレオ	板倉 聖宣
6 大地の子	山崎 豊子	20 十五少年漂流記	ベルヌ	34 14歳からの哲学、14歳の君へ	池田 晶子
7 夏の庭	湯本 香樹美	21 君たちはどう生きるか	吉野 源三郎	35 潮騒	三島 由紀夫
8 人間失格	太宰 治	22 ハムレット、ロミオとジュリエット	シェイクスピア	36 容疑者Xの献身、放課後	東野 圭吾
9 カラフル、リズム、DIVE!!	森 絵都	23 山月記、李陵	中島 敦	37 海辺のカフカ	村上 春樹
10 坊っちゃん、三四郎、こころ、我が輩は猫である	夏目 漱石	24 宝島	スタンソン	38 にんげんだもの	相田 みつを
11 サラダ記念日	俵 万智	25 カモメに飛ぶことを教えた猫	ルイス セプ ルバダ	39 父の詫び状	向田 邦子
12 十字架、君の友だち	重松 清	26 アルジャーノンに花束を	ダニエル キイス	40 星の王子さま	サン テグ ジュペリ
13 杜子春、蜘蛛の糸	芥川 龍之介	27 風が吹くとき	レイモンド プリッグス		
14 モンテクリスト伯	アレクサンドル デュマ	28 夜のピクニック	恩田 陸		

編集

古江台中学校区幼小中一貫教育推進委員会

